

自己点検・評価報告書

- 平成 23 年度 -

文化学園大学
文化学園大学短期大学部

『平成 23 年度自己点検・評価報告書』 作成にあたって

本学では、大学の質保証の充実のための自己点検・評価活動を、組織的な向上・改善に繋げる報告書として年度毎に取りまとめており、本報告書で 6 回目となりました。全学的な FD・SD 活動に連携して自己点検・評価活動をまとめた本報告書の活用は、本学の教育の内部質保証システムの構成・発展のために大いに有効であると捉えております。

平成 23 年 4 月、本学は「文化学園大学」、「文化学園大学短期大学部」と校名を変更し、平成 24 年度からの男女共学実施を視野に、新たなスタートをきりました。そして文化学園大学は平成 24 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の大学機関別認証評価を受審した結果、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する」との認証評価結果をいただきました。

その折、このように組織的継続的にまとめられた本学の自己点検・評価報告書は、自己点検・評価活動の重要な資料であるとして高く評価されました。

大学が学生の成長にどれほどの寄与をしているか、組織的にその教育機能の結果を検証し、PDCA サイクルに載せてスパイラルに向上・改善していくために、今後も全学的に継続して自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。

本報告書作成にあたり、ご理解、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

平成 24 年 7 月 1 日

全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度 (2001)』
2. 『文化女子大学自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 18 年度 - 』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 19 年度 - 』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 20 年度 - 』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 21 年度 - 』
7. 『文化女子大学短期大学部自己評価報告書 平成 21 年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 22 年度 - 』
9. 『文化学園大学自己点検評価書 平成 24 年度』

目 次

『平成 23 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

文化学園大学運営会議・将来構想委員会	8
全学自己点検・評価委員会	10
全学 FD 委員会	12

協議機関

服装学部協議会	16
造形学部協議会	18
学部共通科目協議会	20
現代文化学部協議会	22
短期大学部協議会	24

審議・決定機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	28
国際文化研究科委員会	30
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	32
文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録	33
現代文化学部教授会開催記録	33
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	34

審議機関

常置委員会	
教務委員会	36
学生支援委員会	38
研究委員会	40
入試対策委員会	42
就職委員会	44
特別委員会	
研究倫理委員会	46
研究費不正使用防止委員会	47
ハラスメント防止委員会	48
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	50
建築・インテリア系資格専門委員会	52
文化・語学研修専門委員会	54
日本語教員養成課程専門委員会	56
児童英語教員養成課程専門委員会	57
紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」	58
紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」	60
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	62
学芸員課程専門委員会	64
司書課程専門委員会	65
留学制度検討委員会	66

附属機関	
文化学園大学図書館	68
文化学園服飾博物館	70
文化学園国際交流センター	72
文化学園知財センター	74
文化学園ファッションリソースセンター	76
共同研究拠点	
文化ファッション研究機構	78
附属研究所	
文化・衣環境学研究所	82
文化・住環境学研究所	84
事務局	
全学 SD 委員会	88
学園本部	
学園総務本部	90
学園管理本部施設部	91
学園経理本部	92
IT 委員会(情報システム室ネットワークソリューション課)	93
附：委員会委員一覧表	附 2
学部・学科・コース編成	附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
全学自己点検・評価委員会委員一覧	附 6

協議・審議機関

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「東日本大震災」に伴う学生支援策を検討し、学生の事情に即した対応を行う。【共】 2. 共学化に伴うカリキュラムの改編案を 7 月末までに具体化するとともに、人事計画等の早期化を促進する。【共】 3. 「文化学園大学」として日本高等教育評価機構の「大学機関別評価」(試行)を受審することとし、「認証評価推進委員会」を中心に「自己点検・評価報告書」の作成を行う。【大】 4. 「3 つのポリシー」について各学部・学科の方向性にあわせて検討する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 震災等の危機管理体制の整備を学園全体としてはかることとし、その体制、マニュアル作成の検討を学園総務本部、学園管理本部に要請することとした。また、被災した学生への奨学金給付、入学延期・辞退を申し出た学生への対応を、文化服装学院と歩調を合わせて行うこととした。【共】 2. 共学化に向けた各学部学科カリキュラムの改定案、新コースの開設とそのカリキュラム案を 7 月末に教務委員会に付託。<10 月定例教授会にて承認> 並行して、平成 24 年度の人事計画に着手した。<平成 24 年 2 月定例合同教授会で承認>【共】 3. 日本高等教育評価機構による文化学園大学の「大学機関別評価」(試行)を受審するための「自己点検・評価報告書」を同機構へ提出(9 月)し、次いで実地調査(11/30~12/2)を受け、平成 24 年 2 月 29 日付で新評価基準による「自己点検評価書」の提出要請を受けた。これに基づいて平成 24 年度の大学機関別認証評価を受審することとなった。【大】 4. 「拡大学部長会」を 6 月~8 月にかけて開催し、大学の将来像を検討することとした。【共】 5. 現代文化学部「国際文化学科」の「国際文化・観光学科」への名称変更を文部科学省に事前相談し、平成 24 年 4 月 1 日より「名称変更」の許可を得た。【大】 6. 平成 24 年度より短期大学部は生活造形学科の学生募集を停止し、「服装学科(ファッションビジネス、ファッションクリエイティブ、ファッションプロモーションの 3 コース)」の体制で再出発することとした。【短】 7. 上記 5 . 6 . の変更により、アドミッションポリシーの変更を行うとともに、「3 つのポリシー」全体の見直し作業に入った。【共】 8. 税額控除の改正を機に、在学生の奨学金や海外留学のための寄付金募集を平成 24 年度から開始することとした。【共】
<p>次年度への 課 題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「東日本大震災」に伴う学生支援については、引き続き検討を重ね、実施に移すこととする。 2. 平成 24 年度は男子学生(約 100 人)が入学するにあたり、各学部学科での対応に配慮し、課題の抽出と早期解決をはかる。 3. 学生募集の方向性を見定め、その方針に沿った募集活動を活発化させる。 4. 現代文化学部国際文化・観光学科、文化学園大学短期大学部の認知度を高めるとともに、教育課程の改善に努める。 5. 在学生の「キャリア支援」を強化し、休・退学者の減少をはかり、就職率の向上をめざすための方策を講じることとする。 6. 本学としての「寄付金」募集の活動を本格的に進めることとする。【共】

検討組織名：文化学園大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 6 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学を取り巻く現況について 東日本大震災による東北の大学の被災状況・本学園留学生の入学状況等に関する報告。 2. 拡大学部長会の開催について 各学部学科の科目構成・共学化・短期大学部の展開・文化服装学院との競合等について検討するため「拡大学部長会」を開催する。 3. 節電による授業日程変更について 原発事故による電力不足のため、夏期に2週間の自宅学習期間をおくこととする。 4. 平成 22 年度文化女子大学・文化女子大学短期大学部事業報告書について 5. 日本高等教育評価機構による大学機関別評価（試行）について 平成23年度に日本高等教育評価機構による大学機関別評価(試行)を受審することとする。
平成 23 年 9 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 拡大学部長会経過報告 現在までに3回開催した拡大学部長会議において検討した事項の経過報告。 2. 平成 24 年度以降の短期大学部のあり方について 短期大学部のあり方について検討するためワーキンググループを立ち上げることとする。 3. 日本高等教育評価機構による大学機関別評価（試行）について 9月30日に本編とデータ編を機構に提出する。その後の予定について報告。 4. 平成 24 年度入学式・授業日程・オリエンテーションスケジュールについて 平成 24 年度も電力供給不足による校外学習期間を設定するため、諸行事日程を変更する。 5. その他 平成 24 年度任期制助手の採用について 和洋女子大学との提携について
平成 24 年 1 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度入試状況について 2. 平成 24 年度文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画について 男子学生が入学してくるので、戦略的な計画を立案する。 3. 平成 24 年度東日本大震災による奨学金について 平成 24 年度も別紙配布資料の基準に基づき、奨学金等の支援を行う。 4. 今後の海外交流について（武漢紡織大学等） 武漢紡織大学から本学学部3年次への編入学等を検討する。 5. その他 寄付金募集について 今後の大学広報等について
平成 24 年 3 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私学行政の現状について 2. 学生数の確保について 全学的に退学者減少のための取り組みを行う。 3. 武漢紡織大学との提携について 武漢紡織大学学生の本学3年次編入学と、教員の本学大学院への入学、また本学教員が武漢紡織大学で専門科目を指導すること等の経過報告。 4. 大学機関別認証評価について 新システムによる報告書を作成し、4月6日に機構へ提出する。これをもって、平成24年度に受審したこととなる。 5. 共学化に伴う諸問題について（協議） 6. その他 D館の耐震工事に関する計画報告

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 前年度『平成22年度自己点検・評価報告書』のまとめ・公表 【共】</p> <p>2. 短期大学部認証評価の受審結果を受けての検討 【短】 本学短期大学部は機関別認証評価の結果、平成 23 年 3 月 24 日付で財団法人短期大学基準協会が定める短期大学評価基準を満たしているとして、「適格」と認められた。平成 23 年 3 月25日付の『平成22年度第三者評価結果報告書』を基に、機関別認証評価結果の事由について精査し対応すべき点について検討する。</p> <p>3. 大学機関別評価（試行）受審への対応 【大】 財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の大学機関別評価（試行）受審のため、新評価システムに則った報告書の作成及び実地調査に対応する。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 前年度『平成 22 年度自己点検・評価報告書』のまとめ・公表 【共】 各検討機関より提出された自己点検・評価の原稿を取りまとめ、6 月 1 日付で刊行、学内に配布するとともにホームページにアップし、本年度の自己点検・評価活動への活用を要請した。</p> <p>2. 短期大学部認証評価の受審結果を受けての検討 【短】 財団法人短期大学基準協会『平成 22 年度第三者評価結果報告書』において、特に優れた試みと評価されたのは、コラボレーション科目・特色を打ち出した成果発表の機会・助手会の運営・地域貢献活動であった。向上・充実のための課題として示された、シラパスの内容の具体性・個人研究の活性化・短期大学としての独自性については真摯にうけとめ、短期大学部の編成及び次年度のシラパス作成にあたり対応を進めている。</p> <p>3. 財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の大学機関別評価（試行）受審への対応 【大】 2 期目の認証評価関連の公開研究会、シンポジウム、説明会等に分担して参加し、情報を収集した。大学の 2 期目の大学機関別評価（試行）受審にあたり、認証評価推進委員会と協働して、新評価システムに則り『文化学園大学自己点検・評価報告書』を作成し、9 月末に機構へ提出した。11 月末から 3 日間、評価員の実地調査に対応した。2 月末に新評価システムが確定した後、4 月 6 日の提出日にむけて「試行評価」から「認証評価」への変更作業等を行った。</p> <p>4. 『平成 23 年度自己点検・評価報告書』の原稿執筆依頼 【共】 恒常的な自己点検・評価活動と 2 年連続の受審をきっかけとした見直しを統合して、PDCA サイクルにのせた形式での記載を要請した。</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 『平成 23 年度自己点検・評価報告書』のまとめ・公表 【共】</p> <p>2. 2 期目の認証評価結果の検討と対応 【大】</p> <p>3. 『平成 24 年度自己点検・評価報告書』の作成 【共】</p>

検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 19 日	<p>1. 平成 23 年度財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別評価（大学のみ）受審について 認証評価推進委員会の設置報告 スケジュールについて 新評価基準・項目等の執筆要領の概略</p> <p>2. 『平成 22 年度自己点検・評価報告書』の作成について 提出原稿とエビデンスの確認</p> <p>2. 財団法人短期大学基準協会による短期大学部の平成 22 年度第三者評価結果は、「適格」であったとの報告</p>
平成 23 年 5 月 31 日	<p>1. 『平成 22 年度自己点検・評価報告書』について 提出原稿の書式の確認と印刷に向けてのスケジュール確認</p> <p>2. 平成 23 年度大学機関別評価（試行）について 現状報告 報告書の執筆に関するスケジュール確認 認証評価推進委員会と本委員会の連携について</p>
平成 23 年 10 月 25 日	<p>1. 平成 23 年度大学機関別評価（試行）について 財団法人日本高等教育評価機構へ大学機関別評価（試行）の報告書提出の報告 今後のスケジュールの確認</p> <p>2. 『平成 23 年度自己点検・評価報告書』について 原稿依頼先の確認 「自己点検・評価報告書」執筆依頼書の作成</p>
平成 23 年 12 月 6 日	<p>1. 平成 23 年度大学機関別評価（試行）について 実地調査終了の報告 今後のスケジュール確認</p> <p>2. 『平成 23 年度自己点検・評価報告書』について 執筆の依頼先および依頼方法と日程の確認（平成 24 年 1 月 6 日教授会承認）</p> <p>3. 平成 22 年度短期大学部第三者評価結果について 「向上・充実のための課題」として挙げられた項目について、短期大学部教授会の検討課題であることの確認</p>
平成 24 年 2 月 28 日	<p>1. 『平成 23 年度自己点検・評価報告書』について 本委員会の報告書案の検討 全体のまとめ作業の確認</p> <p>2. 「試行評価」から「認証評価」への変更作業</p>

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校名変更と共学化へ向けての全学 FD 委員会の体制と活動計画の策定 2. 財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の大学機関別評価（試行）の受審 3. 平成 23 年度「全学 FD・SD 研修会」の実施と平成 24 年度の企画 平成 23 年度から「全学 FD・SD 研修会」に非常勤講師に参加していただき、本学の教育方針について、よりご理解を深めていただく。 4. 「学生による授業評価アンケート」の実施計画の策定 5. 各委員会との連携強化と活性化 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女共学化に係る学校名変更に関して、全学 FD 委員会メンバーのコンセンサスを得るためのミーティング・ディスカッションに多くの時間を割いた。小平キャンパスとの会議の効率化を図るため、前年導入した機器による遠隔会議が有効であった。 2. 財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別評価（試行）の受審に関し、全学 FD 委員会メンバーが協力し対応した。特に教員と事務職員が協力して開催する「全学 FD・SD 研修会」については、実施調査において評価員から高い評価を受けた。 3. 平成 23 年度に実施した「全学 FD・SD 研修会」は 2 部構成で展開した。第 1 部は非常勤講師にも参加を要請し、新しい文化学園大学の構想と計画について、学長をはじめ副学長・各学部長が発表した。非常勤講師の各位からは、本学の方針並びに自己との関わりについて良く理解できた感想を受けた。次年度も非常勤講師に参加を要請することを確認した。 4. 「学生による授業評価アンケート」は、前回の結果を十分検討して新入生を対象に実施した。（平成 24 年 1 月後期授業終了時実施）1 年次の学生の授業や大学生活に関する意見は、本学にとって最も重要な項目の一つであり、その結果を全研究室に配信し、今後の授業の改善のための資料とすることが出来た。その実施報告を次年度の課題として挙げた。 5. 各委員会との連携強化と活性化を図ることは本学において一番重要なことである。各委員会と協力し合い、授業に関する提言や学生の生活支援・キャリア形成に関する具体的授業計画の要請は学生支援委員会と連携を強化し、実行した。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度実施の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の結果の活用 2. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」の企画 3. 各委員会との連携強化 4. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集と交流の促進 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成23年5月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年度「全学FD・SD研修会」の実施内容の反省点 2. 平成23年度「全学FD・SD研修会」分科会報告書の作成について 3. 平成23年度第16回FDフォーラムへの参加報告 4. 学生による授業アンケートの実施検討について 5. 男女共学化に伴う教員の対応の研究について
平成23年6月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年度「全学FD・SD研修会」分科会報告書の活用について 2. 男女共学化に伴う教員の対応の研究（授業内容・教員のあり方・教育環境等）について 3. 学生による授業アンケートの実施について 4. 災害における大学教育の対応（節電休校による学習のあり方）について 5. 学生支援のあり方（学生生活支援委員会との連携）について 6. 平成24年4月の「全学FD・SD研修会」の企画について
平成23年7月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの調査方法について 2. 平成24年度全学FD・SD研修会の実施方法について
平成23年9月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの調査方法について 2. 平成24年度全学FD・SD研修会の日程について
平成23年9月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの調査方法について 2. 教員アンケートの実施について 3. FD活動の内容について
平成23年10月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの設問内容について 2. 教員アンケートの実施について 3. 平成24年4月の「全学FD・SD研修会」の日程について
平成23年11月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの実施方法について 2. 教員アンケートの実施について 3. 平成24年4月の「全学FD・SD研修会」の実施方法について
平成23年12月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケート実施についての確認 2. 平成24年4月の「全学FD・SD研修会」のスケジュールについて
平成24年2月3日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの集計結果について 2. 平成24年4月3日（火）開催の「全学FD・SD研修会」のスケジュール調整について 3. 京都キャリア教育フォーラムへの参加について 4. 自己点検・評価報告書の提出書類について
平成24年3月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業アンケートの集計結果と報告書作成について 2. 平成24年度「全学FD・SD研修会」の実施について 3. 平成23年度自己点検・評価報告書及び平成24年度取組課題について

協 議 機 関

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異動を希望する学生の対応に関する申合せについて、引き続いて検討する。【共】 2. University Social Responsibility 推進室 (以下「USR 推進室」) の 5 つの活動とそれらの具体的プログラム実施の積極的推進。【大】 3. 「キャリアデザイン(展開編) コースセミナー」のプログラムを、6月に実施すべく具体化する。【大】 4. 文化学園大学杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」の見直し【共】 5. センター試験利用入試導入 2 年目を迎え、初年度実施の検証を行うとともに適正化について再検討する。【共】 6. 平成 24 年度の共学化に向けて、新コースの策定や具体的なカリキュラム・施設・備品等の検討を行う。【共】 7. 教員構成の適正化を図るべく、次世代養成計画を立てる。【共】 8. グローバリゼーションに対応すべく、国際交流や、産学連携・地域連携を推進する具体的なプログラムの検討を行う。【共】 9. 学生支援活動の必要性の高まりに対応し、キャリアデザイン教育の 1 年から 4 年までの体系化を検討する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生異動の対応については、その対応調査を通して休学・退学者の原因の調査をも合わせて実施し、それらの学生指導のための、ガイドラインを作成した。【共】 2. 教育 GP の助成金採択 2 年目として、USR 推進室の 5 つのワーキンググループ (以下「WG」) の全てにおいて、具体的な成果が上がった。【大】 3. 「キャリアデザイン(展開編) コースセミナー」の学部共通の講演会として、5 月には佐々木常夫氏による「キャリアデザインと人生設計」を実施した。【大】 4. 文化学園大学杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」は、高校側からの希望であるデザインに特化した内容に変更し、一定の成果を上げることができた。 5. センター試験利用入試実施の 2 年目に入り、学内外からの認知が広がり、円滑に実施するとともに、入学者数が増加した。【大】 6. 共学化に向けては、服装社会学科に新コース「グローバルファッションマネジメントコース」を開設し、また、施設・設備等に関しては各科目で男子学生に対応すべく詳細に検討し、万全の態勢を整備中である。【共】 7. 教員構成の配分は、2 研究室において中堅の教員の配置を実施した、しかし適正配分には至らないため更に計画を推進する。【共】 8. グローバリゼーションに対応すべく、中国の武漢紡織大学と提携校の締結を実施した。【共】 9. キャリアデザイン教育の 1 年から 4 年までの体系化について検討する委員会を発足した。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生異動の指導のためのガイドラインの実施を通じた知識を教員相互に交流し、更に中退学者の予防を図るべく、継続して学生調査と教員の意識改革を推進する。【共】 2. キャリアデザイン教育については、継続して実施するとともに、その体系化を具体的に計画する。【共】 3. 共学化初年度として、入試方法やカリキュラム等の検証を行い、今後の共学のあり方を検討する。【共】 4. 教育 GP の補助金削減を受け、USR 推進室の活動の再検討を行う。【大】 5. グローバリゼーションに対応すべく、本学の特徴について学内外の視点から点検し、再検討する。【共】 6. 教員構成の適正化を図るとともに、若手教員の養成計画を推し進める。【共】 7. 教室・設備に関する適正化の見直し。【共】

検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 2 日	1. 新年度にあたって確認事項(入学生数、バザー委員会スタッフ、進学フェスタの日程 服装造形学科のファッションショー協力依頼、共同研究課題募集) 2. 平成23年度日本高等教育評価機構による大学機関別評価(試行)実施 3. 「キャリアデザイン(展開編) - コーセミナー -」の概要決定 4. 文化・衣環境学研究所所報 Vol.3 発行 5. 文化学園大学杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」の実施計画
平成 23 年 4 月 26 日	1. 「キャリアデザイン(展開編) - コーセミナー -」の計画立案 2. 第26回服装造形学科ファッションショーの報告 3. USR 推進室活動報告
平成 23 年 6 月 14 日	1. 今年度から実施の推薦面接方法の確認 2. 「キャリアデザイン(導入編) - フレッシュマンクラブ -」終了報告 3. 学内研究発表会の概要決定 4. 平成24年度のカリキュラム改定討議スタート 5. 文化祭バザーの改革の施行実施の依頼
平成 23 年 7 月 19 日	1. 進学フェスタ・サマーオープンカレッジ終了報告 2. カリキュラム改定の討議 3. 義援金と折鶴を仙台市の小学校に贈呈
平成 23 年 7 月 28 日	1. カリキュラム改定の討議・承認 2. 特任教授として田山淳朗氏と丸山敬太氏が採用決定報告 3. 第27回ファッションショー企画委員選出報告 4. 学内研究発表会中間報告 5. キャリアデザイン(展開編)学部共通講演会終了報告
平成 23 年 9 月 6 日	1. A01 期入試エントリー状況報告 2. 英国ボーンマス美術大学の特別留学の案内 3. 和洋女子大学との単位互換の中間報告
平成 23 年 10 月 11 日	1. A01 期入試合格者数と判定会議における状況報告 2. 服装学部としては 平成24年度学年暦策定のための節電対策用「校外学習」日程案は昨年度通りに決定し了承。 3. USR 推進室から 5 グループの詳細な活動報告 4. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「高機能アパレル開発にむけた動態学的基礎研究」の中間報告案内
平成23年 11 月 15 日	1. 台湾 嶺東科技大学との提携校調印の報告 2. 文化祭報告並びに今年度施行したバザーについては次年度に向けて学科毎に検討の依頼 3. A0 入試 1 期入学手続き者数と推薦・留学生 1 期の応募者数報告 4. 文化学園国際ファッション産学推進機構に服装学部の松田教授が委員長に選任 5. キャリアデザイン委員会の再構築のための検討依頼 6. 衣料管理士課程の認定基準の改定に沿った内容検討の依頼
平成 23 年 12 月 13 日	1. 日本高等教育評価機構の大学機関別評価(試行)実地調査終了報告 2. 平成24年度入学人数現状報告 3. 平成23年度服装学部 3 年生自己診断アンケート結果報告 4. 推薦入試における面接試験の扱いについて討議 5. USR 推進室より「渋谷区成人式ファッションショー」と「文化学園イルミネーション」の活動報告 6. 本年度 2 回目である東京都教員研修センターによる専門性向上研修が受講者からの高評価を得た報告 7. 就職委員会より本年度の就職状況報告
平成 24 年 1 月 6 日	1. 文部科学省高等教育局大学振興課より、「大学教育質向上推進事業」の平成24年度予算見送り通達の報告 2. A0 入試 2 期の合格発表 3. 第 14 回家政学関連卒業論文・修士論文発表会を本学で開催 参加依頼 4. 卒業論文発表会日程発表 5. 「ファッション分野の中核的専門人材養成のための新学習システムの構築プログラム」設立報告
平成 24 年 2 月 7 日	1. 1 月までの入試の手続き者数結果報告 2. 卒業研究学長賞受賞者と展示担当教員者の決定報告 3. 平成 24 年度キャリアデザイン計画の承認 4. 平成23年度から実施した推薦入試の面接方法の協議 5. 文化・衣環境学研究所「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」による研究活動が最終年度を迎え「成果報告会」の開催案内 6. USR 推進室から平成24年度の教育GPの補助金カットによる、活動計画の見直しと新たな補助金獲得の活動の報告
平成 24 年 3 月 5 日	1. 平成24年度入学手続き者数現状報告 2. USR 推進室の卒業生対応WGより卒業生担当者にポータルサイトの入力助言の依頼 3. 平成24年度「文化祭バザー」は改革のための試行を含め昨年同様に実施の依頼 4. 国際ファッション産学推進機構、企業アンケート実施の報告 5. 就職委員会より今年度の傾向と次年度にむけての途中報告 6. 中国 武漢紡織大学表敬訪問報告 7. 平成24年度日本繊維製品消費科学会年次大会が本学で開催 協力依頼

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造形学部生活造形学科における平成18年度の学科改編の総括・点検を行い、平成24年度に向けて共学化を視野に入れた教育内容の改善方策を検討する。【大】 2. 建築・インテリア学科では、年次進行により各コースでの専門教育がスタートするため、4コースの特色に合わせた教育内容の具体化を進め、その成果確認と改善検討を行う。【大】 3. 新宿・渋谷の立地を活かした都市型連携教育、長野県との地域連携教育など、産学連携・地域連携型教育を推進し、その成果を、学外に積極的に公表する。【大】 4. キャリア形成教育科目 5 教科の教育内容の点検と改善方策の検討、体系化を行う。【大】 5. 進学フェスタ、公開講座の点検と改善方策の検討を行い、入学希望者増につなげる。【大】 6. 「造形学部ホームページ」をリニューアルし、卒業生との連携をはかるとともに、学生募集活動の機能を強化する。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造形学部生活造形学科における平成18年度の学科改編の総括・点検においては、学科教員による専門検討ワーキンググループ（以下「専門検討 WG」）を編成し、その主導のもとに学科会議において協議の結果、平成24年度に向けたカリキュラム変更と平成25年度に向けて新コースの立ち上げを決定した。【大】 2. 平成22年度入学生からスタートした「建築・インテリア学科」では、2年次専門教育として4コースの特色に合わせた教育内容の具体化を進めた。学科の教育に関する改善検討については学科教員による専門検討 WG を中心に行い、平成24年度カリキュラム変更と、平成25年度に向けてコース再構成、新コースの立ち上げを決定した。【大】 3. 「地域連携型教育」については「渋谷区地域連携情報マガジン『しまっぷ!』」「多摩産材を活用した家具・インテリア小物のデザイン」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「渋谷区千駄ヶ谷駅前公衆トイレの提案」「道のギャラリー中井・落合」の5つの取組を成功させ、報告会と4日間のパネル展示を行い、学外への公表として成果を挙げた。またこれらの取組をまとめた「平成23年度地域連携型教育事業報告集」を作成、多方面に配布した。「産学連携型教育」については、平成24年度実施予定の小田急電鉄との連携の体制づくりを行った。【大】 4. キャリア形成教育科目についてはアンケートを行い、学生の視点や外部企業のキャリア形成プログラムなどの体験等の情報収集も含めた改善方策の検討を行った。また「クリエイティブキャリア論 A、同 B」についても就職相談室、外部の講師などの専門家も交えた検討会を発足させ、具体的体系の構築をスタートさせた。【大】 5. 進学フェスタ、公開講座については、具現化に向けて担当を明確にし、点検と改善方策の検討を行い、日程や内容の具体案を構築した。入学希望者増加のためには、今後さらに総合的・多角的に検討を進める必要がある。【大】 6. 「造形学部ホームページ」については、卒業生との連携をはかるとともに、学生募集活動の機能強化をはかるとともに大幅なリニューアルを実施するための企画案を作成し、具体的な実行プランを確定した。【大】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度入学生から造形学部生活造形学科では「映像クリエイションコース」、建築・インテリア学科では「住生活デザインコース」をそれぞれ立ち上げるため、双方とも具体的授業内容と設備等の検討と具現化を図る。【大】 2. 造形学部の特色を活かした産学連携・地域連携型教育をさらに推進する。【大】 3. 共学化に伴う諸問題把握と改善策については継続的に検討し具現化する。【大】 4. 学生支援の必要性の高まりに対応し、キャリアデザイン教育の4年間の体系化を検討する。【大】 5. 「造形学部ホームページ」は大幅なリニューアルを実施する。社会、企業、卒業生との連携強化、及び学生募集活動への機能強化を含め、更なる内容充実と改善を推進する。【大】 6. 造形学部両学科の新コース立ち上げを牽引力として、学部の活性化及び学生募集につなげるため、新コースの広報を目的とした講演会等のイベントを積極的に実施する。【大】 7. 両学科間、及びコース間の使用スペースの調整と合理化を実施し、各学科、各コースの教育機能の更なる円滑な運営を促進する。【大】

検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度入学試験、造形学部結果報告 2. 造形学部共通予算に基づく今年度の活動企画についての報告 3. キャリアデザイン導入編・展開編の企画についての依頼 4. 造形学部卒業研究展、創作実習展の会場、日程についての報告
平成 23 年 4 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定校推薦入試制度についての報告 2. 推薦入試面接方法についての報告 3. キャリアデザイン（導入編）「ルッシュマンキャンプ」についての報告 4. キャリアデザイン（展開編）「コースナー」についての報告と依頼
平成 23 年 6 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造形学部の留学制度導入についての報告 2. 学内研究発表会についての報告と依頼 3. 造形学部プレゼンフォーラムについての報告と依頼 4. 造形学部両学科教員の役割分担見直しについての報告
平成 23 年 7 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度向け両学科コース改編案についての報告 2. A0 入試 1 期についての報告と依頼 3. 公開授業・進学フェスタ、サマーオープンカレッジについての報告 4. 学内研究発表会についての報告と依頼 5. 平成 24 年度向けカリキュラム（新 2 講座）の審議
平成 23 年 9 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度向け改編案・今後の取り組みについての報告 2. 公開授業・進学フェスタについての報告 3. 平成 25 年度・教員の国内外研修についての報告と依頼 4. 節電に伴う休校等に関する報告と依頼
平成 23 年 10 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試 1 期結果報告 2. 造形学部将来計画具現化に向けての担当についての報告と承認 3. 短期大学部将来計画についての報告 4. 平成 24 年度授業日程及び節電対策アンケート結果についての報告と依頼
平成 23 年 11 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度コース編成についての報告 2. 平成 23 年卒業研究展、創作実習展についての報告と依頼 3. 平成 24 年度の節電対策について日程報告と承認 4. 今後の地域・産学連携教育事業に関する報告
平成 23 年 12 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度留学生入試及び A0 2 期入試報告 2. 平成 24 年度学部共通予算申請についての報告と依頼 3. 平成 25 年度向け両学科コース編成についての報告
平成 24 年 1 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度編入試験報告 2. 平成 25 年度向け入学案内についての報告と依頼 3. 卒業研究展・創作実習展についての報告と依頼
平成 24 年 2 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度一般入試 A 日程、及びセンター入試 S 期・ 期 報告 2. 卒業研究展・創作実習展終了報告及び来年度日程等についての報告 3. 平成 24 年度造形学部事業計画についての報告 4. 平成 24 年度進学フェスタの取組みについての報告と依頼
平成 24 年 3 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学事前教育プログラムについて 2. 平成 24 年度学部共通予算についての報告と依頼 3. 卒業研究展・創作実習展についての報告と依頼

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合教養のあり方を考える過程で、満足度の高い初年度教育を実現するための本協議会における方策を検討する。【共】 2. 資格関連科目の法改定に伴う新設科目の教育内容の遂行について検討する。【大】 3. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）等への参画の方法について検討する。【共】 4. 外国語の教育内容の改変と科目名を変更し、語学教育の一層の充実をはかる。【共】 5. 外国語の 4 単位分の単位の再配分について、より充実した語学教育に活かす方策を検討する。【大】 6. 土曜日開講の必修科目（主として外国語）の平日開講を検討する。【大】 7. 「中国語」の新設に向けて準備、検討する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>取組の結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題検討のための小グループを 4 グループ設定した。第 1 グループが初年度教育のあり方を検討し、「教養科目の改善に向けて A,B」として課題点の洗い出しを行った。【共】 2. 教職課程履修指定科目の教育内容と文部科学省の定める規定を対応させ、齟齬の有無を確認した。担当者懇談会で履修カルテ、自己評価ノートを学生指導へ活用する方策を検討した。【大】 3. 進学フェスタ、文化祭の参画については第 2 グループが検討した。文化祭の大学グリルにおいては担当教員と副手がそれぞれ役割を担った。【共】 4. 第 3 グループを中心に現行の 3 外国語の教育内容と教科名の改変を行い、教務委員会へ審議申請した<10 月度教授会において承認された>。【共】 5. 総合教養科目と外国語科目を包括した括りを設定し、総計 28 単位の卒業要件の中で、必修外の 12 単位は総合教養科目、外国語科目の双方を自由に選択できるよう自由度を拡大した改変を行い、教務委員会へ審議申請した<10 月度教授会において承認された>。【大】 6. 主として水曜 5 時限を対象に検討したが、関係部署との間で継続審議することとなった。【大】 7. 「中国語」の新設に向けて、第 4 グループが教育内容と教科名の検討を行い、一連の「中国語科目」の新設を教務委員会へ審議申請した<10 月度教授会において承認された>。【共】 <p>点検・評価</p> <p>平成 23 年度に課題として設定した事項は概ね達成された。特に、外国語科目の必修単位数を 4 単位とすることで英語の 2 年次科目の多様化が可能となった。外国語科目の選択肢の拡大に向けて中国語の新設が承認され、平成 24 年度より実施の運びとなった。また、2 年次から新たな外国語を履修する入門科目が新設された。英語の能力別クラス編成に向けて初の全面的プレースメントテストを行った。</p> <p>平成 23 年度受審の大学機関別評価（試行）で自己点検・評価報告書の改善・向上方策（p.45）に掲げた『『外国語』に『中国語』を開設すること、ビジネス英語、TOEIC、留学を目指す学生のための英語科目の充実を図り、平成 24 年度に開講予定である。』に対応する取組となった。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合教養における「スタディスキルズ」に相当する科目の開設に向けて教育内容、授業形態の検討と各学部専門科目担当者への意識の共有化をはかる。また、開講する場合の実務上の諸問題、担当者、時間割上のコマ設定等の問題を洗い出し、検討する。【共】 2. 総合教養科目の内容の更なる多様化を図るために、現行、「A,B」で対応している科目の一本化（半期圧縮化）の可能性の検討と可能な範囲からの実現をはかる。【大】 3. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）等への参画の方法について検討する。【共】 4. 新入生オリエンテーションに「外国語科目の履修について」の時間帯を確保し、その適切な運用について検討する。それによって英語のプレースメントテストの受験率の改善をはかる。【共】 5. 中国語履修に定員制を設け、同時に履修希望者数と現行のコマ数の妥当性を検討する。【共】 6. 短期大学部のカリキュラム変更に対応した本協議会の取組を検討する。【短】

検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 1 日	1. 新入メンバー紹介 藤井先生、岡島先生、川村先生 2. 委員会報告 教務委員会 カリキュラム改定案は7月末を締切りとする 3. 小グループ報告 英語クラス分けテスト用マークシートについて 4. その他 震災への対応について
平成 23 年 4 月 26 日	1. 小グループ報告 英語クラス分けテストは無事終了した 2. その他 進学フェスタ展示用パネルを共学向けに手直し 大学機関別評価（試行）受審について
平成 23 年 6 月 14 日	1. 委員会報告 入試対策委員会 大学 IT 小委員会 学生支援委員会 2. 小グループ報告 文化祭グリルの担当者選出：本多先生、小山先生、木村先生 外国語科目必修単位数と履修方法の変更：総合教養・外国語28単位、 各系列・外国語4単位 3. その他 学内研究発表会 後期開講科目の追加登録 退学者減に向けた取組
平成 23 年 7 月 28 日	1. 委員会報告 入試対策委員会 2. 小グループ報告 教職課程履修指定科目のシラバスを文部科学省の規定と対応中 外国語：委員会提出のカリキュラム改定案の検討 母国語の選択制限の文言を追加
平成 23 年 9 月 6 日	1. 委員会報告 大学 IT 小委員会 全学 FD 委員会 教務委員会 2. 小グループ報告 教職課程担当者の懇談：履修カルテ、自己評価ノートの活用について 3. その他 後期の諸行事と平成 24 年度節電対応について 高校訪問報告
平成23年 10 月 11 日	1. 委員会報告 全学 FD 委員会 2. 小グループ報告 総合教養科目を A,B で 2 単位にした科目の半期への圧縮の可能性 「スタディスキルズ」に相当の科目新設の検討 服装社会学科「基礎文章表現」について 中国語の新年度の定員制について 3. その他 節電対応スケジュールについて 副手の採用、更新手続き期日の早期化
平成23年 11 月 15 日	1. 委員会報告 教務委員会 入試対策委員会 全学 FD 委員会 2. 小グループ報告 総合教養科目 2 単位の圧縮への意見が集約された 外国語科目の単位変更に伴う履修要綱の内容を検討 中国語の時間割と担当者を検討 3. その他 退学相談者への対応 バザー委員会報告
平成23年 12 月 13 日	1. 委員会報告 全学 FD 委員会 2. 小グループ報告 総合教養科目は原則として半期圧縮の方向で進める 「スタディスキルズ」は現行の休講科目に新設が可能 中国語は仏語に対応してコマ設定 3. その他 副手のタイムカード 授業アンケート 短期大学部の加計処理変更
平成 24 年 1 月 6 日	1. 委員会報告 教務委員会 全学 FD 委員会 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」は担当教員、コマ、時間割の検討を要する 3. その他 平成 24 年度入学状況 2 月協議会の日程
平成 24 年 1 月 30 日	1. 委員会報告 全学 FD 委員会 教務委員会 2. 小グループ報告 総合教養科目の半期圧縮に対するアンケート調査の文案 オリエンテーション時の語学選択方法と中国語抽選方法の新入生配布のプリント文案 3. その他 センター入試の結果 短期大学部キャリア形成教育科目について
平成 24 年 3 月 5 日	1. 委員会報告 教務委員会 学生支援委員会 研究委員会 全学 FD 委員会 2. 小グループ報告 平成24年度新入生と担任への外国語科目履修方法の詳細説明について 3. その他 短期大学部キャリア形成教育科目について 平成 24 年度予算と授業用消耗品について

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特に国際ファッション研究室の教員は、研究テーマを重視し論文に着手するよう努力する。 2. 国際文化学科と応用健康心理学科は、学生に対しての授業体制を研究し時代に合った授業、カリキュラムの充実を図り、学生にアピールできる学科にするよう各研究室で努力、検討する。 3. 3 学科はそれぞれ、今の時代、社会が必要としている学科である。特に共学化に伴い、それぞれの特徴を發揮できるチャンスであることを念頭におき、時代にあった授業体制の確立を検討する。 4. 国際文化学科と、応用健康心理学科は、平成 23 年度に実習室と常設の展示室が完成するので、常に新しい展示や実習室の充実を図り、在学生が有効活用できるように努力する。また、高校生、保護者に対しての広報に活用する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際ファッション研究室では、IC チップの研究を継続しており、昨年に引き続き研究経過の成果を学内研究発表会で発表した。また、若手教員が「文化学園大学紀要 服装学・造形学研究」にて論文を発表した。今後もさらに多くの教員が学会や研究会での発表や論文発表をするよう、働きかけていく必要がある。 2. 国際文化学科は、2 年次から「国際文化コース」と「国際観光コース」に分かれ、より興味のある専門科目を 2 年次から履修できるようにした。さらに学科名を平成 24 年度入学生より「国際文化・観光学科」に名称変更することとした。これにより学科の内容がより明確になり、学生募集につながるものと思われる。応用健康心理学科では、基礎演習科目を充実させ、教員 2 人体制での授業や、学生による新聞記事の発表を毎回行うなどの工夫を行った。発表に対する議論も活発化するなどの成果も見られ、継続して行っていく必要がある。 3. 12 月に学部長、3 学科の中堅・若手教員、教学課、学生支援課の職員計 9 人で構成する「現代文化学部改善検討会」を発足した。卒業までに学生に身につけて欲しい力、そのためのカリキュラム、基礎学力向上、就職支援など総合的学生の支援のシステムを検討している。平成 24 年度中に結論を出し、カリキュラム等に反映させていく。 4. 国際文化学科では、授業等で実習室を有効活用している。また学外からの見学者に対しての広報に活用している。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代文化学部改善検討会」において、ディプロマポリシーを明確にし、それに基づいたカリキュラム、基礎学力の向上、就職支援を含めた学生生活の充実方策など総合的学生の支援のシステムを検討する。また、学生指導を行う上で必要な教員のための研究・教育環境の検討を行う。 2. 「国際文化・観光学科」は、必修化した英語・中国語について具体的な到達目標を設定し、語学力の向上を図る。また、平成 23 年度より刷新した「国際観光」・「新しいビジネス」分野の専門科目のさらなる充実を図る。 3. コミュニティーオープンカレッジを組織的に運営し、カリキュラムを充実する。 4. キャリア形成教育科目の強化とインターンシップ及び学外研修等を充実させ、2 年生のインターンシップを一部で実施する。 5. 男子学生を学生会、委員会活動やクラブ活動へ積極的に参加させるための支援を行う。 6. 日本人学生による留学生のチューター活動を充実させる。 7. 小平キャンパスへ学内見学のために来校した高校生・保護者に対して、学科の教育内容をより理解しやすくするための常設の学科展示室の有効利用を図る。 8. 教員の研究発表や論文発表、さらに科学研究費等への応募を積極的に勤めていく。 【大】

検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 新入生健康調査について 4. フレッシュマンキャンプについて 5. けやき祭について 6. 計画停電について
平成 23 年 5 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 文化学園大学杉並高等学校授業見学会について 4. 文化学園大学杉並中学校けやき祭見学について 5. 進学フェスタについて 6. コミュニティーオープンカレッジについて
平成 23 年 6 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 7月土曜日の補講について
平成 23 年 10 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 転学部（編入）について 4. タイ泰日工業大学来校について 5. 文化祭について
平成 23 年 11 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム検討のためのワーキンググループについて 2. 学内研究発表会世話人について 3. 短期研修旅行に関する規程について 4. 大学機関別評価（試行）実地調査について 5. 国際文化学科の学科名変更について
平成 23 年 12 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 現代文化学部改善検討会について 4. サマーオープンカレッジについて 5. 平成 24 年度特別留学プログラムについて 6. 平成 24 年度コミュニティオープンカレッジについて
平成 24 年 1 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科・研究室近況・検討課題について 2. 国際文化研究科近況・検討課題について 3. 平成 24 年度文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画書について 4. 現代文化学部改善検討会経過報告
平成 24 年 3 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代文化学部教員人事について 2. 平成 24 年度予算について 3. 現代文化学部改善検討会経過報告

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服装学科教育 GP の終了を受けて、カリキュラム化をはかる。 2. 平成 24 年度を予定していた日本高等教育評価機構による認証評価は、大学機関別評価（試行）の関係で延期することとし、自己点検・評価を中心におき、短期大学としてのあり方を多角的に検討する。 3. 平成 24 年度からの共学化に備え、カリキュラムや教育環境について再点検する。 4. 引き続き「3つのポリシー」を、具体的で高校生や社会一般に理解されやすいものにする。 5. 両学科の交流を促すとともに、短期大学としての社会貢献のあり方を模索する。 6. 文化学園大学との関係の中で「地域連携教育」の具体化をはかる。 7. 生活造形学科の「生活造形グループワーク」において、特色を活かした教育内容の充実をはかり、学科の活性化と入学希望者の増加に繋げる。 8. 短期大学基準協会による機関別認証評価の結果を受け、教員の研究活性化に向けた具体的な方策を講じる。 【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 拡大学部長会（6月～8月開催）において、短期大学部の将来構想を検討することとした結果、平成 25 年度を期して、服装学科と生活造形学科を統合して「服装学科」（ファッションビジネス、ファッションクリエイティブ、ファッションプロモーションの3コース編成）とし、生活造形学科は学生募集を停止することとした。 新しい体制に向けて、平成 24 年度から教育 GP のカリキュラム化は現状 2 学科共通で行なうものとした。 2. 平成24年度に文化学園大学が日本高等教育評価機構による大学機関別評価（試行）を受審することとなったため、文化学園大学短期大学部の受審は延期することとした。 3. 共学化と新体制に向けて、抜本的にカリキュラムの見直しをはかり、平成 25 年度実施に向けて検討を開始した。 4. 平成25年度からの新体制に向けて「アドミッションポリシー」を改定するとともに、わかりやすい「3つのポリシー」の検討を進めることとした。 5. 平成24年度から両学科のカリキュラムの共通部分を増やすとともに、協働して社会貢献活動を行うこととした。 6. 東京都府中市、長野県須坂市等との「地域連携教育」を進めた。 7. 「生活造形グループワーク」を進めるとともに、新たな「ファッションプロモーションコース」への転換の方向性を検討した。 8. 短期大学基準協会による認証評価の結果をもとに、各教員による研究は「学内研究発表会」、「教員研究作品展」、各学会での発表等が増える方向にある。 【短】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度に発足する新体制に向けて、内部的整備をはかり、加えて学生確保のための方策を新たに打ち出すこととする。 2. 新体制による「3つのポリシー」の明確化を急ぐこととする。 3. 入学案内、ホームページ、各種イベント、地域連携教育等を通じて、新たな文化学園大学短期大学部の認知度を高めるよう努める。 【短】

検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 5 日	1.平成22年度の振り返り 2.教員新体制顔合わせ 3.平成23年度新入生数と在籍者数の報告 4.入学式・保護者懇談会報告 5.キャリアデザイン(導入編)-フュチュアキャンパス- 6.進学フェスタと入学案内冊子 7.短期大学部の入学案内の作成 8.短期大学部の生き残りの戦略とは 9.キャリアデザイン(展開編)-コセナー- 10.委員会報告
平成 23 年 5 月 6 日	1.震災等の危機管理 2.留学生情報の掌握 3.キャリアデザイン(導入編)-フュチュアキャンパス- 4.進学フェスタ 5.研究室図書 6.委員会報告
平成 23 年 6 月 1 日	1.震災等の危機管理 2.学生の動向 3.進学フェスタ 4.キャリアデザイン(展開編)-コセナー-の企画 5.教育 GP 最終報告書と訪問調査 6.委員会報告
平成 23 年 6 月 24 日	1.進学フェスタ 2.節電休講に関する学生指導 3.学内研究発表会(9月7日) 4.公開授業 5.生活造形学科創作実習展に向けて 6.産学連携に向けて 7.委員会報告
平成 23 年 8 月 1 日	1.平成24年度の入学見込と対策 2.夏季休暇中の対応 3.学内研究発表会 4.A0入試1期試験体制 5.9月開講のコラボレーション科目の確認 6.委員会報告
平成 23 年 9 月 5 日	1.平成24年度の入学見込と対策 2.学内研究発表会 3.9月開講のコラボレーション科目の確認 4.球技祭 5.産学連携 6.キャリアデザイン(展開編)-コセナー- 7.文化祭準備 8.ウィンドウ展示 9.委員会報告
平成 23 年 10 月 6 日	1.平成24年度の入学見込と対策 2.短期大学部将来構想 W.G.の件 3.キャリアデザイン(展開編)-コセナー-<10月11日~13日> 4.AD 画廊展示 5.文化祭 6.平成24年度の予算案 7.委員会報告
平成23年 10 月 27 日	1.平成24年度の入学見込と対策 2.短期大学部将来構想 W.G.の件 3.文化祭について (AD 画廊の展示含む) 4.キャリアデザイン(展開編)-コセナー-の報告 5.教授会、学部協議会の報告 6.委員会報告
平成23年 11 月 17 日	1.平成24年度の入学見込と対策(11月17日現在) 2.短期大学部将来構想 W.G.の件 3.平成24年度(事業)授業計画案 4.平成24年度経費予算案 5.文化祭の反省(バザー他) 6.委員会報告
平成23年 12 月 15 日	1.平成 24 年度の入学見込と対策(12月15日現在) 2.短期大学部将来構想 W.G.の件 3.平成 23 年度教育 GP 発表会 4.専攻科ルミネ展示会・生活造形学科創作実習展 5.委員会報告
平成 24 年 1 月 6 日	1.平成 24 年度の入学見込と対策(12月15日現在) 2.短期大学部平成24年度学生募集と平成25年度以降の事業計画・体制 3.平成23年度教育 GP 型授業発表会 4.専攻科ルミネ展示会・生活造形学科創作実習展 5.2月開講のコラボレーション科目 6.卒業式 7.委員会報告
平成 24 年 1 月 12 日	1.府中市美術館 ワークショップ開催の依頼
平成 24 年 2 月 6 日	1.平成24年度の入学見込(2月5日現在) 2.平成23年度教育 GP 型授業発表会終了 3.専攻科ルミネ展示発表会終了 4.教員人事 5.平成24年度担任・副担任 6.2月開講のコラボレーション科目(2月13日~2月18日) 7.卒業式(3月11日)・卒業記念パーティー(3月12日) 8.短期大学部平成24年度の学生募集と平成25年度以降の事業計画(ファッションプロモーションコース) 9.委員会報告
平成 24 年 3 月 8 日	1.教員人事 2.平成23年度卒業式・平成24年度入学式 3.平成24年度事業計画 4.平成24年度事業予算 5.教室計画(大学院より依頼) 6.平成24年度委員会(各係)の担当 7.委員会報告

審議・決定機関

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。平成 23 年度もオリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 2. 大学院生活環境学研究科の中でも被服学専攻と生活環境学専攻とで発足の時期・歴史が異なるため、全体としてのカリキュラムに不均衡が見られる。また、一部教員の欠員による実質的カリキュラム上の課題もあり、平成23年度は再度ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを見直すとともに、現状の分析を通してより質の高いカリキュラムの整備が課題である。 3. 学生の質向上に向けては、奨学金制度を有効に利用するとともにその広報を推進し、入試制度を改善することによって、外部に向けても積極的に優秀な院生の確保を諮ることが課題である。 4. 大学院授業の国際化については、大学院生活環境学研究科における特別委員会を正式に発足させ、院生の語学環境（英語等）の充実化対策、専門授業の英語による開講、海外提携大学との交換留学制度等の具体化に向けて推進することが課題である。 5. 他大学・他企業との連携研究・教育については、連携研究に院生を積極的に関与させるリサーチ・アシスタント(以下「RA」)制度の有効活用が平成23年度以降の課題である。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度に予定した大学院関連行事はいずれも成功裏に終了した。大学院セミナー参加学生は47人、このうち6人が博士、17人が修士論文の中間報告を行い、院生・教員による活発な議論が行なわれ、院生の満足度も高かった。オムニバス授業のテーマは「グローカリゼーション」文化祭への参加、修了パーティーの企画実施等も、院生が自主的に運営し、教育・研究上の成果をあげる事ができた。 2. 委員会は月例並びにセミナー期間中の集中的ミーティングを通して多くの課題を解決した。特に、平成 24 年度のカリキュラム改定に向け、専攻によるカリキュラム不均衡の是正、専修制度の発足、新規専修の発足等を検討し実施案を策定した。 3. 学生の質の向上に向けては、根岸愛子特別奨学金・文化学園大学大学院特別奨励金制度、ティーチング・アシスタント(以下「TA」)、RA等の経済支援の充実、外部への広報活動により優秀で多様な人材の確保を推進した。さらに大学院 FD ワーキンググループ(以下「大学院 FD」)では院生のニーズ調査等活動を推進した。 4. 大学院授業の国際化に向けては、院生の英語力向上を図るとともに、全科目英語授業の「グローバルファッション専修」を発足させ、本格的なグローバル化を推進することとした。 5. 企業連携には RA 制度を利用し、院生の参加を推進したが、海外提携大学との交換留学制度等の具体化は平成24年度に残された。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。平成 24 年度もオリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会、作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 2. 平成24年度はカリキュラムが大きく変更され、特に新規にグローバルファッション専修、アドバンストファッションデザイン専修の2専修が発足する。グローバルファッション専修では、英国とチリからの学生を受け入れ、すべての授業を英語で行うため、教員の英語力の向上も必要である。またアドバンストファッションデザイン専修ではデザイナー4人を特任教員として採用し、新たな人材育成に取り組む。これら新カリキュラム実施の成果を十分にあげることが大きな課題である。 3. 本学が世界のファッション研究・教育のリーディング大学院として発展し世界に認知されることをめざし、文部科学省公募による博士課程教育リーディングプログラムに応募することを課題としたい。 4. そのためには院生への経済支援・教育環境の整備・研究支援の向上、さらには教員の研究・教育の質の向上こそが重要である。大学院 FD による自己研鑽、国内・海外研修制度による教員研修の実施、教員の学会活動の活性化等を平成 24 年度の課題としたい。 【大】

検討組織名：大学院生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 13 日	1. 委員会新構成員の承認 2. 平成 23 年度 TA を承認 3. 大学院セミナー内容審議 4. 大学院パンフレット制作に向けて内容を検討、カリキュラム原案作成委員を指名 5. 生活環境学特別講義 A・B をほぼ確定 6. 大学院 FD より院生からのヒアリング実施案 提示 7. 根岸愛子特別奨学金の目録授与式(院生 6 人)
平成 23 年 5 月 25 日	1. 平成 24 年度専攻分野名及びカリキュラム変更案を承認。論文指導教員の資格と科目担当 に関する申合せを承認 2. 大学院セミナーの日程・司会・進行・参加教員等承認 3. 文化学園大学ティーチング・アシスタント規程及び申請に関する申合せ事項の一部改定 を承認 4. グローバルファッションプログラム(全授業英語開講)の提案
平成 23 年 6 月 15 日	1. 大学院パンフレットの作成スケジュールを確定 2. 大学院セミナーの発表者について 論文指導者からの申請を要請 3. 学費の改定に関する理事会報告 4. 文化祭研究科展示 の実施及び担当教員を決定 5. グローバルファッションプログラムの実施を承認
平成 23 年 6 月 30 日	1. 平成 24 年度より被服学専攻及び生活環境学専攻に専修を置き、被服学専攻では新規 2 専 修を加え 7 専修とし、生活環境学専攻では 2 専修とすることを承認 2. 大学院 FD 報告、院 生の目線に立った改革を委員会で検討することを了承 3. 社会人受入れの拡充について検 討
平成 23 年 7 月 20 日	1. 新事務局長の紹介 2. 大学院セミナー報告 3. グローバルファッション専修、アド バンスファッションデザイン専修のカリキュラムを確定。生活造形学専修の特論は ABC の うち 2 科目選択性とすることを承認 4. 院生の受賞報告[コンテストラブリ 1 人、学会賞 1 人]
平成 23 年 9 月 7 日	1. 平成 24 年度カリキュラム及び担当教員の検討 2. 各専攻の研究計画書案を承認。修士 論文説明会開催日の確認 3. 平成 22 年度生活環境学研究科実績報告書進行状況の報告 4. 文部科学省策定「第 2 次大学院教育振興実施要項」の配付、継続審議
平成 23 年 10 月 19 日	1. 学則変更を承認 2. 平成 24 年度カリキュラム及び担当教員の審議 3. グローバル ファッション専修の募集要項、出願資格、選考方法、提出書類等に関する検討 4. 大学院 自習室の使用状況に関する調査を大学院 FD に依頼 5. 平成 22 年度研究科実績報告書の完 成
平成 23 年 11 月 9 日	1. アドバンスファッションデザイン専修特任教授、田山氏、丸山氏、皆川氏等の担当科 目の決定 2. 平成 24 年度大学院セミナーの日程確定 3. 新設専修のスペース、備品等の 拡充について検討 4. 文化祭大学院展示報告 5. 平成 24 年度の FD、特別講義、文化祭、 実績報告書担当者決定
平成 23 年 12 月 7 日	1. 被服学専攻、生活環境学専攻の英語表記を検討、ホームページに記載を要請 2. 平成 24 年度より修士論文指導時間を教員あたり通年 2 コマとして時間割表記し、博士の指導コマ は別表とする 3. 大学院加給・研究費改定案について事務局説明 4. 文部科学省公募に ついては検討小委員会を発足
平成 24 年 1 月 25 日	1. 修士論文審査委員、修士論文発表会日時、担当者決定 2. 生活環境学特別講義のテー マを「共通性と独自性」に決定 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文提出者(甲 3 人、乙 1 人)審査委員並びに公聴会の日程を決定
平成 24 年 2 月 21 日	1. 平成 23 年度被服学専攻・生活環境学専攻修了判定。卒業式代表を決定 2. グローバル ファッション専修、アドバンスファッションデザイン専修のカリキュラム、担当者及び自 習室を確定 3. 「建築士試験の大学院における実務経験の確認申請書」提出受理報告 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文公聴会開催日程確定
平成 24 年 3 月 1 日	1. カリキュラムの変更及び担当教員について 2. 特任教員について 3. 根岸愛子特別 奨学金受給者の決定(生活環境学研究科 5 人、国際文化研究科 3 人) 目録授与式 4 月 5 日 【被服環境学専攻委員会】 1. 平成 23 年度博士論文提出者最終審査及び修了判定(甲 3 人、乙 1 人)

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下の教育・研究の成果を上げることが目的とし、新たに設置するオムニバス形式の「国際文化研究特別講義」を充実させる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 複合分野の研究の創生・強化を図る。 (2) 他専修の大学院担当教員の研究内容、研究方法などを知り、連携の可能性を模索し、共通プロジェクトへ発展させる。 (3) 各専修の学生、教員同士のコミュニケーションを強化する。 2. 大学院の国際化について以下を推進し、語学環境を整える。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教材に英文のジャーナル等を援用することにより、グローバルな視点を広げる。 (2) 英文によるアブストラクト作成、英語のプレゼンテーション能力向上を図る。 (3) 担当教員の研究論文の海外ジャーナル投稿、海外共同研究などにより質の向上を目指す。 3. 修士論文の主査、副査担当教員は 1 年次から適切な指導にあたる。 4. 他研究科、他大学との連携の可能性を考える。平成 23 年度は、研修会を本学生活環境学研究科と合同で開催し、肯定的な成果を得たい。 5. 修士論文が、個人の学問的探求の成果、社会的ニーズへの対応や問題解決に資する提案となるように指導に取組む。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たに設置したオムニバス形式の「国際文化研究特別講義」により、他専修の大学院担当教員の研究内容、研究方法などを理解し、連携の可能性を模索した。複合分野の研究の創生・強化を図り、共通プロジェクトへ発展させる可能性が得られた。 2. 大学院の国際化に関連して以下の目標を定めて実践した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) グローバルな視点強化のため、教材に英文のジャーナル等を多く援用した。 (2) 英文によるアブストラクト作成、英語のプレゼンテーション能力の向上を図った。 (3) 国際会議への参加、発表、担当教員の研究論文の海外ジャーナル投稿、海外共同研究を企画した。 3. 修士論文の主査、副査担当教員は、1 年次から適切な指導にあたった。 4. 本学生活環境学研究科との研修会合同開催は、平成 23 年度は見送ることとし、さらに検討していくことにした。 5. 修士論文発表会において社会的ニーズへの対応や問題解決に資する提案・考察を行なった。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化研究科の充実のために、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの確認、観光文化関連の科目の充実、学生募集のパンフレットとホームページの内容、就職支援も研究指導と並行して強化する。それらの担当を決めて具体化する。 2. 学生が研究しやすい体制をつくるために、教育体制として、学生の研究・自習室整備、学生の修士論文作成に必要な教育環境を整えるための教育資源の充実化をさらに進めていく。 3. 大学院研修会について、指導体制の強化を図るために、年 2 回の研修会を実施したが、さらに、関連分野の他の研究方法の在り方を学び、また、研究論文作成に当たり様々な視点からの指導を受けられるように、宿泊型専修合同研修会の企画を検討する。 4. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性(~)において審議された、各専修の複合分野創成を視野に入れた研究を進めるために、オムニバス形式の「国際文化研究特別講義」に共通テーマを設定する。その準備も兼ねて、各専修共通の「調査研究法」の科目を設定する。 5. 3 専修横断的テーマを研究していくことにより社会のニーズに応える実践的な提案に繋げていく。複合分野のテーマを肯定的に受け入れていく。 6. 各専修の学生、教員同士のコミュニケーションを強化する。 【大】

検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 7 日	学生へのオリエンテーション 1. 平成 24 年度国際文化研究科委員会の委員、新委員紹介、担当科目確認 2. 国際文化研究科の知的分野・創造的分野・技術分野の向上のための研究体制の確認
平成 23 年 4 月 19 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () (1)教員の研究成果を積極的に発信する (2)学生の語学力の向上を図る 2. 平成 22 年度の国際文化研修会を 6 月の修士 2 年の中間発表、9 月の修士 1 年の研究計画発表の場とする 3. 平成 23 年度のティーチング・アシスタント 2 人承認 4. 演習室 G を院生の研究・自習室とする 5. 平成 23 年度根岸愛子特別奨学金授与 6. 修士 1 年の主査・副査決定
平成 23 年 5 月 31 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () (1)学位「国際文化学」に関する各専修に跨る科目設定の検討 (2)国際文化学科観光コース卒業生受け入れに関するカリキュラムの検討(継続) 2. 広報の再検討 3. 研修会開催について 4. 修士論文製本について
平成 23 年 6 月 28 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () (1)国際文化学科観光コース卒業生受け入れの強化 (2)学生募集のパンフレットとホームページの内容の充実化 2. 大学院入試 1 期問題作成 3. 研修会(修士 2 年)報告
平成 23 年 7 月 19 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 継続審議 2. 専修共通科目の検討 3. 大学院 1 期入試問題作成について 4. 研修会(修士 1 年)の日程確認 5. あかしや会の日程確認
平成 23 年 9 月 13 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 継続審議 2. 大学院 1 期入試問題について設問、論文課題を確定 3. 入試問題と著作権に関して入試広報に確認 4. 研修会(修士 1 年の研究計画発表)について
平成 23 年 10 月 11 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 指導體制、研究体制の充実化について引き続き検討 2. 大学院 1 期入試の判定者並びに判定会議の日程を決定 3. 修士 1 年研修会の報告 4. オフィスアワーの設定 5. 修士論文の発表会の日程確定
平成 23 年 11 月 8 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 継続審議 2. あかしや会発表者について 3. 「大学院学位授与の過程」の明示について検討(継続) 4. 大学院 1 期入試結果報告
平成 23 年 11 月 29 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 継続審議 2. 2 専修を 3 専修に改編した効果について 学部と大学院の継続性(継続審議)について 3. 3 専修教員担当の「国際文化研究特別講義」(オムニバス形式)の評価について 4. 大学院入試 2 期の問題検討 5. 奨学金の選抜基準について
平成 24 年 1 月 17 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () 継続審議 2. 国際文化専修のカリキュラム再検討(類似名称の他大学との比較) 3. 「国際文化研究特別講義」の単位数、期間、内容 対象確定 他継続審議 4. 大学院入試 2 期問題確定
平成 24 年 2 月 17 日	1. 平成 23 年度の国際文化研究科の方向性について () (~) 総括 2. 修士論文提出報告、修士論文面接結果発表、修士論文最終審査報告 3. 校名変更に伴う男子学生入学への対応 4. 平成 24 年度の開講科目について検討、確認 5. 大学院 2 期入試結果報告 6. 平成 23 年度修士代表者決定、平成 24 年度根岸愛子特別奨学金推薦者決定

開催年月日	開催記録
平成 23 年 4 月 1 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 23 年度新入生数について 3. 平成 24 年度入試関係について 4. 平成23年度入学式・保護者懇談会・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン(導入編) - フルタイムキャンパス - 」打ち合わせについて 6. 専門性向上研修の実施について 7. 附属高等学校の大学見学会について 8. 服装学部服装造形学科ファッションショーの開催について 9. 避難訓練について 10. 研究室・教室等の変更について 11. 平成 22 年度卒業判定会議における認定保留者について 12. 博物館展示について</p> <p>【審議事項】 1. 教員異動について 2. 学生異動について 3. 転学願出者について 4. 再入学願出者について</p>
平成 23 年 7 月 28 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成24年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇について 5. 所持品の管理について</p> <p>【審議事項】 1. 特任教員の採用について 2. 学生異動について 3. 教員異動について</p>
平成 23 年 9 月 6 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成24年度入試関係について 3. 第33回球技祭について 4. 学生会サミット(代議員大会)について</p> <p>【審議事項】 1. 特任教員の採用について 2. 学生異動について 3. 科目等履修生入学許可について</p>
平成23年 11 月 15 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 文化祭報告 4. 平成 23 年度消防訓練(新都心キャンパス)について</p> <p>【審議事項】 1. 学生異動について 2. 特任教員の採用について</p>
平成23年 12 月 13 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 造形学部卒業研究展、短期大学部生活造形学科創作実習展について 4. 年末年始休暇について</p> <p>【審議事項】 1. 学生異動について 2. 特任教員の採用について</p>
平成 24 年 1 月 6 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成24年度入試関係について 3. 後期定期試験について</p> <p>【審議事項】 1. 学生異動について</p>
平成 24 年 2 月 7 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について</p> <p>【審議事項】 1. 教員異動について[正教授会(第8条教授会)報告] 2. 学生異動について 3. 転学・転学科願出者について</p>
平成 24 年 3 月 5 日	<p>【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成24年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画について 3. 平成 24 年度入試関係について 4. 平成 23 年度卒業式・平成 24 年度入学式について 5. 教員春季休暇について 6. 新年度のスケジュールについて</p> <p>【審議事項】 1. 教員人事について 2. 学生異動について 3. 転学・転学部・転学科・再入学願出者について 4. 特任教員について 5. 学則変更について</p>

検討組織名：文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 24 年 4 月 2 日

開催年月日	開催記録
平成 23 年 4 月 26 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 小平キャンパスけやき祭について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について 2. 入学延期願出者について</p>
平成 23 年 6 月 14 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 学外共同研究について</p> <p>4. キャリアデザイン（導入編）- フレッシュマンキャンプ - 終了について</p> <p>5. けやき祭終了について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について</p>
平成 23 年 10 月 11 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について</p> <p>3. 平成 24 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について</p> <p>4. 平成 24 年度任期制助手の採用について 5. 平成 24 年度副手の採用申請について</p> <p>6. 平成 23 年度卒業式・平成 24 年度入学式日程について 7. 文化祭について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について 2. 平成 23 年 9 月卒業について 3. 特任教員の採用について</p>

検討組織名：現代文化学部教授会開催記録

報告者：青柳 宏

提出日：平成 24 年 4 月 2 日

開催年月日	開催記録
平成 23 年 5 月 10 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について 2. 留学終了者について 3. 入学辞退・入学延期願出者について</p>
平成 23 年 6 月 21 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 学外共同研究について</p> <p>4. キャリアデザイン（導入編）- フレッシュマンキャンプ - 終了について</p> <p>5. けやき祭終了について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について 2. 留学願出者・留学終了者について 3. 科目等履修生について</p>
平成 23 年 10 月 18 日	<p>【報告事項】</p> <p>1. 委員会報告 2. 平成 24 年度入試関係について 3. 平成 24 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 24 年度任期制助手の採用について</p> <p>5. 平成 23 年度卒業式・平成 24 年度入学式日程について 6. 文化祭について</p> <p>【審議事項】</p> <p>1. 学生異動について 2. 平成 23 年 9 月卒業について</p>

開催年月日	開催記録
平成 23 年 5 月 24 日	【報告事項】 1．平成 24 年度入試関係について 2．キャリアデザイン（導入編）- フレッシュマンキャンプ - 報告
平成 23 年 7 月 19 日	【報告事項】 1．委員会報告 2．平成 24 年度入試関係について 【審議事項】 1．学生異動について
平成 23 年 10 月 4 日	【報告事項】 1．短期大学部ワーキンググループについて 【審議事項】 1．学生異動について 2．平成 23 年 9 月卒業について
平成 23 年 12 月 20 日	【報告事項】 1．委員会報告 2．平成 24 年度入試関係について 3．生活造形学科創作実習展・専攻科作品展示について
平成 24 年 2 月 21 日	【報告事項】 1．委員会報告 2．平成 24 年度入試関係について 3．専攻科被服専攻修了制作作品展示報告 4．生活造形学科創作実習展報告 【審議事項】 1．学生異動について

審 議 機 関

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 共学化に向けてのカリキュラムの充実 3. 「コラボレーション科目」の充実 4. 平成 24 年度授業日程の検討 5. S 評価導入後の運用状況の確認 6. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「規程集」各項の見直しと改定、学則変更及び新規規程案の検討 (1)規程等の改定 学則、単位履修に関する細則、文化学園大学の教員の任用に関する規程細則、同短期大学の教員の任用に関する規程細則、文化学園大学教授会規程、同短期大学部教授会規程、文化学園大学休学・復学に関する細則、同短期大学部休学・復学に関する細則、文化学園大学・同短期大学の教員の任用に関する規程細則の審査書類に関する申合せ事項、同研究費運用準則、同私費外国人留学生授業料減免に関する規程 【共】 文化学園大学 AUCB(ボーンマス美術大学)特別留学プログラム実施要項、同卒業研究に関する細則、同編入学生規程 【大】 (2)規程等の制定 文化学園大学・同短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程、同大規模災害に伴う学生の休学等に関する特例を定める規程、同感染症に伴う学生の休学等に関する特例を定める規程、文化学園大学と文化学園大学短期大学部間の教科目履修に関する細則 【共】 2. 共学化に向けてのカリキュラムの充実(カリキュラムの改定) 外国語科目 【共】 服装学部服装造形学科、同服装社会学科、造形学部生活造形学科、同建築・インテリア学科、現代文化学部国際文化学科、同国際ファッション文化学科、資格関連科目 【大】 短期大学部服装学科、同専攻科 【短】 3. 「コラボレーション科目」の充実 平成 22 年度に行った科目の意義・目的の周知の徹底、シラバスの表記の工夫により、学生の履修状況を改善した。 【共】 4. 授業日程の検討 平成 23 年度は東日本大震災の影響による節電休校期間を設定。平成 24 年度は、同理由による補講・校外学習期間を設定。年間行事と授業時数の確保を考慮の上決定した。 【共】 5. S 評価導入後の運用状況の確認 S 評価導入後 3 年目を迎え、本来の目的に沿った評価として効果を上げている。 【共】 6. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討については、平成24年度より始まる共学化と合わせ、継続検討事項とする。 【共】 7. その他 履修登録の時期及び方法について次年度も継続して検討する。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 共学化に相応したカリキュラムの充実 3. 「コラボレーション科目」の充実 4. 授業日程の調整と検討 5. 共学化に伴う学生の質の多様化から生じる諸問題の検討 6. 履修登録の時期及び方法についての検討 【共】</p>

検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 19 日	1.カリキュラム改定(案)審議 2.委員選出母体群構成員表の検討 3.文化学園大学学則変更(案) 4.同短期大学部学則変更(案) 5.単位履修に関する細則改定(案) 6.卒業研究に関する細則改定(案) 7.文化学園大学の教員の任用に関する規程細則改定(案) 8.同短期大学部の教員の任用に関する規程細則改定(案) (1,3~8 平成23年4月26日教授会承認)
平成 23 年 5 月 20 日	1.カリキュラム改定案の提出スケジュールについて 2.国際文化学科の科目名について (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 5 月 24 日	1.マナーウォークの日程に関して 2.委員選出母体群構成員表の検討
平成 23 年 6 月 14 日	1.カリキュラム改定(案)審議 2.卒業研究に関する細則(改定案)の文言の修正について 3.履修手続きの審議 (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 7 月 19 日	1.委員選出母体群構成員表(案)について 2.文化学園大学・同短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程(案)について 3.文化学園大学・同短期大学部大規模災害に伴う学生の休学等に関する特例を定める規程(案)について 4.文化学園大学・同短期大学部感染症に伴う学生の休学等に関する特例を定める規程(案)について 5.カリキュラム改定(案)審議 (1~4 平成23年7月28日教授会承認)
平成 23 年 7 月 19 日	1.新都心キャンパス カリキュラム改定に関する情報交換 (新都心キャンパス小委員会)
平成 23 年 7 月 26 日	1.履修の手続きについて 2.カリキュラム改定(案)審議 (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 7 月 29 日	1.カリキュラム改定(案)審議 (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 8 月 1 日	1.カリキュラム改定(案)審議 2.文化学園大学と同短期大学部との単位互換について 3.後期開講科目の追加登録について
平成 23 年 8 月 21 日	1.カリキュラム改定(案)審議 (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 9 月 20 日	1.カリキュラム改定(案)審議 2.後期開講科目の追加登録について 3.文化学園大学と同短期大学部との単位互換について(1 平成23年10月11日教授会承認)
平成23年10月7,21日	1.科目名の英文表記について (小平キャンパス小委員会)
平成 23 年 10 月 25 日	1.文化学園大学・同短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程(案)について 2.文化学園大学と同短期大学部間の教科目履修に関する細則について 3.文化学園大学編入学生規程(改定案)について 4.総合教養科目の上の学年の履修について 5.平成24年度授業日程表について (1,2,5 平成23年11月15日教授会承認)
平成 23 年 11 月 22 日	1.文化学園大学編入学生規程(改定案)について 2.文化学園大学教授会規程(改定案)について 3.同短期大学部教授会規程(改定案)について 4.総合教養科目の上の学年の履修について 5.コラボレーション科目のシラバス依頼に関する確認 (1~3 平成23年12月13日教授会承認)
平成 23 年 12 月 20 日	1.平成 24 年度「ドレスコードの日」開催に伴う授業日程変更について
平成 24 年 1 月 17 日	1.文化学園大学休学・復学に関する細則(改定案)について 2.同短期大学部休学・復学に関する細則(改定案)について 3.文化学園大学・同短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程(改定案)について 4.文化学園大学・同短期大学部の教員の任用に関する規程細則の審査書類に関する申合せ事項(改定案)について 5.文化学園大学AUCB特別留学プログラム実施要項(案)について (1~5 平成24年2月7日教授会承認)
平成 24 年 2 月 28 日	1.文化学園大学・同短期大学部教員研究費運用準則(改定案)について 2.後期開講科目の追加登録について
平成 24 年 3 月 13 日	1.文化学園大学・同短期大学部教員研究費運用準則(改定案)について 2.教務委員会の平成 23 年度自己点検・評価報告書(案) (1 平成 24 年 4 月 2 日教授会承認)

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校名変更や共学化に伴う学生支援の在り方 平成 24 年度の共学化に伴う男子学生への対応のしかた、初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上開発。4 月の全学 FD・SD 研修会で、全教員に検討してもらう予定の「初年次生の支援における担任制の在り方」についての意見を検討 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 継続的なメンタルヘルスセミナーの検討 3. 学内巡回 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込みなど）について指導や巡回の対処法を検討 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討 マナーウォークを全学的に取り組むための検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校名変更や共学化に伴う学生支援の在り方 共学化に伴い、担任・副担任のペアを男性どうしとならぬように工夫する。また引き続き初年次における担任制のありかたについて、まだ結論をみていないが、少人数制にできないか議論を重ねる。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 平成 24 年度 4 月の全学 FD・SD 研修会において、「結核に関するヘルスケア」講座として保健所と健康管理センターの講演を計画。また委員会において学生相談室のカウンセラーからの定期報告を受け、それぞれのケースにおいて個別の対応を検討 3. 学内巡回 徹底的な巡回と美化の呼びかけにより、例年以上に学内美化（ゴミ、吸殻、ロッカー使用）が行われた。今後とも継続的な学生のマナーと美化に対する呼びかけを検討 4. 各種行事内容の見直し 学生会リーダーズトレーニング、クラブリーダーズトレーニングなどの内容を見直し、なるべく短時間で効率のよいものとした。また、NHK 主催の美とウォークイベントを、大学で協力し開催。1000 名近くの外部参加を得た。今後とも継続的なマナーウォークを検討していく。 さらに 4 月には全学的なカラーディ・ドレスコードイベントを行い、継続性を検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共学化に伴う学生支援の在り方 平成 24 年度の共学化に伴う男子学生への対応のしかたなど、浮上する可能性のある諸問題、初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上開発、少人数担任制の在り方について引き続き検討 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 初年次生の具体的な支援活動および継続的なメンタルヘルスケアについて、また全教員に共通意識を持たせてもらうための方法や、それらセミナー開催などについて検討 3. 学内巡回 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込み、ロッカーの使用など）について指導や巡回の対処法を検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討 マナーウォークやカラーディ・ドレスコードイベントの全学的取り組みの検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 26 日	1. 年間活動方針と行事予定 2. マナーウォークについて 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他(東日本大震災被害状況および留学生登校状況について/メンタルヘルスセミナーについて)
平成 23 年 5 月 31 日	1. 文化学園大学奨学金について 2. 緑道・学内巡回指導について 3. マナーウォークについて 4. 新入留学生懇談会について 5. 学生会リーダーズトレーニングについて 6. 総合学生生活委員会報告(東日本大震災について/防犯ベルについて/喫煙スペースについて/トイレ表記について) 7. その他(文化学園大学奨学金申請用紙の取り扱いについて/けやき祭について/メンタルヘルスセミナーについて/担任制について/チューターについて)
平成 23 年 7 月 19 日	1. 緑道・学内巡回指導について 2. 新入留学生懇談会結果報告 3. 平成 23 年度健康診断結果報告 4. 学生相談室について 5. 総合学生生活委員会報告 6. その他(文化学園大学奨学金について/私費外国人留学生授業料減免について/球技祭について)
平成 23 年 9 月 29 日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告 4. その他(各種奨学金貸与者数について/平成 23 年度クラブ入部状況について/小平キャンパス・食堂について)
平成 23 年 10 月 25 日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 2. 留学生(上級生)懇談会について 3. 学生相談室報告について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他(緑道・学内巡回指導について/文化祭での不審者の対応について)
平成 23 年 12 月 6 日	1. 留学生懇談会(上級生)結果報告 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他(緑道・学内巡回指導について/文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規則について/小平キャンパス・チューターについて/小平キャンパス・学食について/学生のクラブ活動について/担任制の見直しについて)
平成 24 年 1 月 24 日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他(小平キャンパス・チューターについて/小平キャンパス・留学生相談会について/クラブ活動について/私費外国人留学生学習奨励費応募者面接について/自己点検・評価報告書について)
平成 24 年 2 月 20 日	1. クラブリーダーズトレーニング報告 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告 4. その他(平成 24 年度避難訓練について/自己点検・評価報告書について/次期委員の改選について)
平成 24 年 3 月 15 日	1. 申し送り事項について 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員研究作品展を開催し、多くの出品者を募り、教員の研究成果を学内外に発表する機会を設ける。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 23 年度以降の開催場所の確保について検討 (2) 作品集（第 12 集）を発行 2. 研究室図書充実を図るための予算を確保し、分配方法と重点配分図書費について検討する。 3. 教員研修講演会については、他の委員会との連携を深め、開催について検討する。 4. 公開講座を継続して実施するために以下の内容について検討する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化ファッション研究機構とのコラボレーションによる実施について検討 (2) 服飾博物館の見学は継続し、参加者の満足が得られるよう、誘導案内、アナウンス等の工夫 (3) 参加者の恒久的な安定化を図るため広報活動の見直し (4) 時代のニーズと受講者層を考えながら実施するための検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 26 回教員研究作品展を開催し、学内外からの来場者に本学教員の研究成果を公表した。会期中延べ 900 人の入場者を得た。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 遠藤記念館ギャラリー及びコスチュームギャラリーを会場として確保し、開催した。 (2) 作品展第 25, 26 回展示作品を収録した作品集（第 12 集）を発行した。文化学園リポジトリへの同作品展出品作品の登録案内を開始し、教員の研究成果の蓄積と公表の一助となった。 2. 研究室図書予算を検討し、公平性をもって予算配分を行った。また、重点配分図書購入予算と申請内容を検討し、図書の選定を行った。図書館蔵書との重複を避け無駄のないよう選定した。 3. 教員研修講演会については日時設定と開催会場の確保が難しく、今年度は開催できなかった。年間行事予定上、教員が参加できる日時設定と会場の確保が難しいため、実施について検討を行った。その結果、平成 24 年度からは不定期の実施に変更し、適切な講演者の候補が挙がった場合、計画実行することとした。 4. 平成 23 年度秋期・春期特別公開講座を実施した。秋期（11 月）は本学の永野順子教授による「運動が支える女性の健康」、春期（3 月）は内井乃生名誉教授による「建築家内井昭蔵が残したもの」の講演、各回講座終了後に博物館見学という内容で実施した。参加人数は、秋期 142 名、春期 217 名であった。本学における多様な教育内容を学外の方に示すことができ、講演の満足度も高かったが、特に秋期については参加者数を増やすための工夫が必要である。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化ファッション研究機構とのコラボレーションを検討したが、実施に至らず継続審議とする。 (2) 毎年好評である服飾博物館の見学は学芸員との連絡連携を密にし、一般観覧者と区別するためのカードを用意するなどの対応を行った結果、混乱なくご観覧いただくことができた。 (3) 広報は、大学 HP、fashion.jp の他、新聞掲載依頼先を増やし、複数のインターネット公開講座サイトへの掲載を開始することで学外への広報手段を増やした。今後、来場者の推移を確認する。 (4) 女性の運動と健康、建築と健康など、60 代以上が最多である受講者層のニーズを反映したテーマによる講演を実施した結果、アンケートにおいてもテーマについて好意的な記述が多かった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の研究成果の発表の場としての教員研究作品展の継続的かつ安定的な開催の検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次年度の開催場所は遠藤記念館ギャラリーと決定、以降の開催場所確保と運営方法の検討 (2) 作品集（第 13 集）準備のためのスムーズな作品撮影の実施 2. 公開講座の継続的かつ一層の効果的実施のための検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学園内の他機関との連携を視野に入れつつ、参加者のニーズにより応えるための講演テーマ、講演者の検討 (2) 服飾博物館の見学の継続と、参加者の満足が得られる入館から見学までの案内の工夫 (3) 大学の他行事の広報活動と連携を開始する。実施継続と今後の方法についての検討 (4) 参加者数の安定化と層の拡大を目指し、インターネットを含めた広告媒体、広報活動の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度研究室図書費及び重点配分について 2. 第 26 回教員研究作品展に向けての準備状況の確認 3. 平成 23 年度秋期・春期特別公開講座予算及び秋期公開講座役割分担の決定
平成 23 年 5 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年春期特別公開講座講演者候補の検討及び秋期公開講座の業務進捗状況の確認 2. 平成 23 年度研究室図書費の検討と教授会審議案の作成(平成 23 年 6 月 14 日教授会承認) 3. 平成 23 年度図書係会開催日時・場所の検討 4. 学外共同研究申請(1 件)の審議(平成 23 年 6 月 14 日教授会承認)
平成 23 年 7 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度秋期特別公開講座講演タイトルの検討と業務進捗状況の確認 2. 「文化学園リポジトリ」への研究成果登録許諾書(作品用)の検討 3. 学外共同研究申請(1 件)の審議(平成 23 年 7 月 28 日教授会承認)
平成 23 年 9 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度秋期特別公開講座に向けた広報活動の検討と業務進捗状況の確認 2. 第 26 回教員研究作品展アンケート結果の報告と第 27 回教員研究作品展開催日時・会場の検討
平成 23 年 10 月 27 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度春期特別公開講座講演者の確認と秋期特別公開講座業務進捗状況の確認 2. 平成 23 年度研究室図書重点配分規程の作成と第 27 回教員研究作品展開催日時の検討 3. 学外共同研究申請(2 件)の審議(平成 23 年 11 月 15 日教授会承認)
平成 23 年 11 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度秋期特別公開講座の業務進捗状況の確認と当日役割分担の検討 2. 教員研究作品展作品集第 12 集作成及びリポジトリ許諾用紙配布、スケジュールの確認 3. 第 27 回教員研究作品展予算案審議及び開催会場に関する検討
平成 23 年 12 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度秋期・春期特別公開講座予算案の審議 2. 平成 23 年度春期特別公開講座ポスター・チラシ・DM 概数案審議及び春期特別公開講座業務進捗状況の確認 3. 平成 24 年度以降の公開講座ポスター制作及び議事録保管場所の検討 4. 第 27 回教員研究作品展開催日時の検討
平成 24 年 1 月 31 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度春期特別公開講座チラシ・DM 概数変更案審議と業務進捗状況の確認 2. 平成 23 年度秋期特別公開講座アンケート結果の報告と参加者数増加に向けた方策の検討 3. 教員研究作品集第 12 集配布とリポジトリ登録依頼完了の報告 4. 第 27 回教員研究作品展会期決定と予備登録状況の確認
平成 24 年 2 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度春期特別公開講座業務進捗状況及び当日の役割分担の確認 2. 教員研究作品集第 12 集国内外発送について 3. 第 27 回教員研究作品展ポスター・DM 配布準備日程の決定
平成 24 年 3 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度春期・秋期特別公開講座経費報告及び次年度への引継ぎ事項の確認 2. 第 27 回教員研究作品展開催に向けた準備状況の確認

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 平成 23 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施の検討 2. 入試のあり方への検討 3. 新入生アンケートによる結果の検討 4. 高校訪問の実施と方法の検討</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 平成23年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施の検討 (1)平成23年度進学フェスタ(オープンキャンパス)は、文化祭及び卒業研究展での特別進学フェスタを除き、両キャンパスで12回行われた。結果、来場者数は4,033人で前年度比254人の増加であった。平成23年度から、教員による高校訪問を組織的・試行的に行ったことにより、進学フェスタ等について直接高校教員及び高校生に案内できたことの成果が表れた。また、平成22年度より新都心キャンパスでは3学部合同会場にて個別相談及びパネル展示を行うこととしたが、これが根付いてきたためと思われる。さらに校名変更及び共学化に併せ、一部の学部で展示パネルのデザインを一新する作業を行ったことも影響したと考えられる。 (2)サマーオープンカレッジを7月23日～25日、同27日～29日に両キャンパスで行った。結果、受講者数は延べ794人で前年度比184人の大幅増加であった。平成22年度減少の原因として、「講座が同じ日に集中し複数の受講ができないため」という総括から、講座の開催日をバランスよく配置した結果、申し込みがしやすくなったためと考えられる。しかしながら、平成23年度の申込者数は延べ1,202人であり1/3の申込者が受講できない状況である。これをさらに改善する必要がある。 (3)公開授業(新都心キャンパス)に関しては、同日開催の進学フェスタ参加者数をみると前年度比241人増という大幅な増加であった。平成22年度の減少の原因として、「高校生の期末試験の日程、時間(時限)の影響のため」という総括から、平成22年度より1週間遅い7月16日(土)に実施し、時限も土曜日に授業がある高校を鑑み4～5限に実施したためと思われる。また、高校訪問による公開授業の広報も影響したと思われる。平成24年度は、小平キャンパスも高校生が来校しやすいよう日程をずらして公開授業を行う予定である。</p> <p>2. 入試のあり方への検討 平成23年度より、推薦入試における面接試験の導入と指定校推薦制度が導入された。平成23年度の状況と平成24年度は各学科の事情を鑑み、指定校の選定を再度検討する必要がある。</p> <p>3. 新入生アンケートによる結果の検討 新入生アンケートにより、ファッションやデザイン分野に進学する学生は、中学生の時など比較的早い時期に進路の意思を固めるという結果が判明した。これを受けて、「小中学生のための夏休み体験講座」が検討された。具体的には平成24年度の夏の進学フェスタと同日開催にて、小中学生を対象とした体験講座を4～5講座程度試行的に実施する運びとなった。</p> <p>4. 高校訪問の実施と方法の検討 平成23年度試行的に行った教員による高校訪問では、一都三県を中心に244校へ96名の教員が訪問を行った。進学フェスタ、サマーオープンカレッジ、公開授業、入学志願者数に対し、一定の効果が認められたため、平成24年度より全学的・組織的に実施することになった。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 平成 24 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 4. 入試のあり方への検討 5. 新入生アンケートによる結果の検討</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進学フェスタについて（4/23 の内容確認等） 2. 公開授業について 3. 平成 23 年度入学生「入学事前教育プログラム」結果報告について 4. 平成 23 年度新入生アンケートについて
平成 23 年 5 月 31 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進学フェスタについて（4/23・5/21 の報告、6/11 の内容確認等） 2. 公開授業について（現状報告） 3. 平成 24 年度入学生「入学事前教育プログラム」の内容検討について 4. 競合校のオープンキャンパス日程について 5. 高校訪問（試行）について（経過報告・平成 24 年度実施に向けての検討）
平成 23 年 7 月 22 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試 1 期のエントリー状況について（報告） 2. 進学フェスタ(6/4、6/11、7/9、7/16 の 報告及び来年度の検討) 3. サマーオープンカレッジ応募状況結果（報告） 4. 平成 24 年度入学生「入学事前教育プログラム」について（各学科から実施内容の報告） 5. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討） 6. 奨学金について（提案）
平成 23 年 9 月 20 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試 1 期の出願許可者について（報告） 2. 進学フェスタについて（9/17 の報告） 3. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討） 4. 本学への接触者について（報告）
平成 23 年 10 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討）
平成 23 年 10 月 25 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推薦入試の志願者状況について（報告） 2. 平成 24 年度「進学フェスタ」「サマーオープンカレッジ」の日程及び内容について 3. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討） 4. 平成 24 年度新入生アンケート実施について
平成 23 年 11 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試 2 期のエントリー状況について（報告） 2. 平成 24 年度「進学フェスタ」「サマーオープンカレッジ」の日程及び内容について 3. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討） 4. 現代文化学部 平成 25 年度 A0 入試の実施方法について（検討）
平成 24 年 1 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度進学フェスタの企画内容について 2. 平成 24 年度進学フェスタ用の学部学科・コース紹介パネルについて 3. 小中学生のための夏休み体験講座の試行的実施について 4. 高校訪問について （平成 23 年度結果報告書の作成について・平成 24 年度の実施内容について検討） 5. 平成 25 年度 A0 入試ガイド作成依頼について
平成 24 年 2 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校訪問について（平成 24 年度の実施内容について検討） 2. 平成 25 年度指定校推薦入試について 3. 小中学生のための夏休み体験講座の試行的実施について（経過報告） 4. 平成 24 年度進学フェスタの企画内容について 5. 平成 24 年度入学生「入学事前教育プログラム」申込み結果について（報告） 6. 平成 24 年度新入生アンケートについて
平成 24 年 3 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度入試結果について（経過報告） 2. 平成 24 年度進学フェスタについて 3. 平成 24 年度高校訪問について 4. 平成 25 年度指定校推薦入試の指定高校の選定方法について 5. 次年度への申し送り事項について

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. インターンシップについての学生の関心度アップ 履修登録前の説明会の工夫及び意義周知徹底を行う。将来的な課題として、2 年次導入・実施に向けた検討を進め、学生の認識や視野を広める業種及び産業分野・企業部門分野を配慮した細やかな企業開拓を行う。 【大】</p> <p>2. キャリア支援について 社会や企業の環境変化を受け、大学としての学生支援のあり方・内容を委員会として提言する。キャリア形成教育科目、クリエイティブキャリア論、就職講座の内容重複の見直しをさらに進める。 通年化・必修化を視野に入れた科目の内容の充実・成果確認等の推移を見守る。 【大】</p> <p>3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 見学企業の拡大と参加学生増への内容充実を検討し、特色あるプログラム展開を行う。 【短】</p> <p>4. 就職講座について 小単位の講座実施、コースの講義への担当者同席、卒年次アンケート実施への検討を行う。【共】</p> <p>5. 担任・副担任との連携について 連携して企業訪問を行い、得た情報について早急に学生に還元・共有する方法を検討する。【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. インターンシップについての学生の関心度アップ 服装学部は事前教育内容を見直しグループワークを行い認識の共有化を図った。終了後は職種グループ毎事後反省会と自己評価を実施。造形学部は履修状況把握のアンケートを実施し取り組み意識確認を行った。また説明会の全員周知を徹底した。現代文化学部は2 年次導入・実施を視野に入れ検討。業種および産業分野等を広げるため担任・副担任と連携し活動を進めた。【大】</p> <p>2. キャリア支援について 服装学部 USR 推進室と共同実施の3 年次へのキャリア意識調査アンケートを2 年次で実施した。1 年間の意識変化を分析後3 年次就職講座でフィードバックした。またクリエイティブキャリア論に就職担当者参加の回を設け就職講座との連携を計った。 【大】</p> <p>3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 見学企業の受入れ態勢充実の配慮と学生の前向きで熱心な参加により、充実した内容となった。今後も学生への周知徹底・受入れ企業拡大等、充実を図る。 【短】</p> <p>4. 就職講座について 内容により学科毎の実施と時間割変更等により出席率向上が見られた。担任出席も得た。【共】</p> <p>5. 担任・副担任との連携について 企業訪問を実施。訪問記録・アンケート結果をまとめ、教員へフィードバックを行った。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 学生がより積極的に参加する内容に改善。事前のグループワーク・事後反省会・公開報告会・企業担当者出席等の見直しを行う。さらにキャリアプランニング ・ の企業開拓と学生の研究機会を広げる為、学外インターンシップも一定基準を満たせば単位化の道を検討する。【大】</p> <p>2. キャリア支援について 意識調査アンケートを記名式に変更。3 年次のアンケート集計分析後に返却し学生の意識向上に役立てる。設問内容も再検討する。またキャリア支援科目の通年化・必修化を視野に入れた内容充実・成果確認等の推移を見守ることとする。 【大】</p> <p>3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 見学企業の拡大と参加学生増への内容充実を検討し、特色あるプログラム展開を行う。 【短】</p> <p>4. 就職支援について 就職試験に向けた講座およびセミナー等のさらなる充実を図る。 【共】</p>

検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 12 日	1. 各小委員会の活動報告 学部 / インターンシップ研修期間・事前教育・報告会等 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 自己点検・評価、就職講座、キャリア形成教育科目
平成 23 年 7 月 12 日	1. 各小委員会の活動報告 服装学部 / インターンシップ事前教育・公開報告会 造形学部 / インターンシップ受入れ企業・選考 現代文化学部 / インターンシップ事前教育、キャリア形成教育科目 短期大学部 / インターンシップ履修者、コラボレーション科目 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 インターンシップ実施企業一覧、中小企業を含む求人情報収集
平成 23 年 9 月 20 日	1. 各小委員会の活動報告 インターンシップ公開報告会・グループワーク・アンケート調査、海外インターンシップ等 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 インターンシップ学生意識
平成 23 年 10 月 19 日	1. 各小委員会の活動報告 学部 / インターンシップ公開報告会 短期大学部 / コラボレーション科目履修者 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 学生の外部イベント見学、キャリア形成教育科目、企業の倫理憲章・大学の申し合わせ、就職講座
平成 23 年 11 月 22 日	1. 各小委員会の活動報告 服装学部 / インターンシップ反省会 造形学部 / インターンシップ公開報告会・アンケート調査 現代文化学部 / グループ面談、キャリアプランニング、2 年次インターンシップ 短期大学部 / Campus Plan Web 就職登録会 コラボレーション科目履修 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 小平コラボレーション科目
平成 23 年 12 月 20 日	1. 各小委員会の活動報告 服装学部 / インターンシップ反省会・学生アンケート調査・次年度検討事項 造形学部 / インターンシップアンケート調査、就職活動 現代文化学部 / 就職講座、基礎学力 短期大学部 / 個人面談、進路調査 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 採用活動スケジュール
平成 24 年 1 月 24 日	1. 各小委員会の活動報告 造形学部 / インターンシップアンケート調査集計 現代文化学部 / 次年度の検討 短期大学部 / コラボレーション科目企業見学 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(テーマB)補助金、就職懇談会
平成 24 年 3 月 6 日	1. 各小委員会の活動報告 服装学部 / 自己点検評価、企業訪問アンケート集計 造形学部 / インターンシップアンケート調査集計結果 現代文化学部 / 官公庁インターンシップアンケート結果 短期大学部 / コラボレーション科目履修、キャリア形成教育科目 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他 就職懇談会結果、学内合同企業セミナー
平成 24 年 4 月 2 日	1. 平成 23 年度就職委員会まとめ 自己点検・評価まとめ 2. その他 平成 23 年度進路状況

検討組織名：研究倫理委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 24 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 本学研究倫理規程及びヘルシンキ宣言の趣旨を学内外にさらに啓発する。 2. 研究計画と「研究倫理審査申請書」による審査とが時系列的に序列されるよう周知をはかる。 3. 本学特有の研究と研究倫理規程との整合性について、さらに検討を加える。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 教授会を通じて、本学研究倫理規程及びヘルシンキ宣言の趣旨を周知すべく、委員会としての発言の機会を設けた。 2. 研究計画と「研究倫理審査申請書」による審査を有機的に結びつける目的で、「文化学園大学研究倫理委員会審査基準に関する申合せ事項(案)」を委員会として作成した。また「インフォームド・コンセント書式例」を添付することとし、その作成にあたった。 3. 研究倫理規程の適用範囲は、外部での発表が予想される「修士論文」の研究を含めるものとするを再確認した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 「文化学園大学研究倫理委員会審査基準に関する申合せ事項(案)」(含、「インフォームド・コンセントの書式例」)を運用する過程で生ずる課題を整理する。 2. 大学院生(特に、修士論文)の研究において、上記の運用が難しくなる局面が予想されるので、各専修の指導教員と学生に、より周知をはかることとする。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 2 月 1 日	<p>1. 平成 23 年度 本学における研究倫理に関する問題点の整理 「研究倫理規程の運用に関する内規(仮称)」を作成し、「迅速審査」に関する申合せを明文化することとする。内規案は平成 24 年 4 月の教授会で報告する。</p>
平成 24 年 3 月 6 日	<p>1. 文化学園大学研究倫理委員会審査基準に関する申合せ事項(案)について 2. インフォームド・コンセントの書式例について 1. 2. とともに、審議を踏まえて再度検討し、各委員に送信する。</p>

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 学外からの研究費の導入が多様なものとなる傾向を踏まえ、「競争的資金（公的資金）の取扱要領」、「研究費不正使用防止計画に関する覚書」をさらに見直すこととする。</p> <p>2. 学外の機関との共同研究にあたって、契約書等、本学と当該研究機関との関係を明確にすることを研究者間に啓発し、契約書等を徴することの徹底をはかる。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「競争的資金（公的資金）の取扱い要領」、「研究費不正使用防止計画に関する覚書」について、教授会を通じて一層の周知をはかるとともに、「科学研究費補助金」の申請者については、説明会を開催して理解を求めた。</p> <p>2. 学外の機関との共同研究にあたって、契約書等、本学と当該研究機関との関係をより明確にするために、教員全体に認識を深めるよう求めるとともに、契約書等を徴するよう個別に徹底をはかるべく、事務局担当者から説明を行うこととした。</p> <p>3. 文部科学省からの「研究期間における公的研究費の適正な執行等のための取り組みの徹底について（通知）」に基づいて、全専任教員と、対象期間（平成20年4月1日～平成23年7月31日）中、50万円以上の取引のあった企業 41 社について調査を実施した。全専任教員、全企業とも問題となる事実はなかったため、その旨、教授会で報告するとともに、今後とも公正な執行に努めるよう要請した。</p> <p>4. 「個人研究費」については、「教員研究費」と名称変更し、その公的性格と適正な使用についての認識を教員間に高めるよう努めることとした。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 「競争的資金（公的資金）」の導入が、多様化する方向にあることに鑑み、「適正な使用」に向けての方法を、さらに検討することが必要である。</p> <p>2. 「教員研究費」に関する「年次計画書」、「年次報告書」の見直しをはかり、適正な使用を徹底すべく、方策を検討することとする。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成 23 年 11 月 1 日</p>	<p>1. 委員の変更について</p> <p>2. 研究費における公的研究費の適正な執行等のための取組みについて 文部科学省からの「研究機関における公的研究費の適正な執行等のための取り組みの徹底について（通知）」をうけ、本学でも全専任教員と取引企業を対象とした調査を行うこととする。 全専任教員と、対象期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日）中、50 万円以上の取引のあった企業 41 社について調査した結果、全教員・全企業ともに問題となる事実はなかった旨、平成 24 年 1 月 6 日定例文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会において委員長より報告した。</p> <p>3. その他 「個人研究費」の名称について 本学では研究費について「個人研究費」という名称を使用しているが、名称変更を検討してはどうか。次回以降の委員会で検討することとする。 「教員研究費」に変更することを委員長からメールで委員に提案したところ、特にご意見がなく、承認。</p>

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任期満了の相談員の交代と(新旧)相談員への研修を行う。 2. 学生対象の「アンケート」の検討を行う。 3. 教職員、非常勤講師のなかには日本語の理解が十分でない外国人が含まれるので、簡単な英文の「ガイドライン」を作成しておくことが望ましく、作成に着手する。 4. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>取組みの結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談員への研修を行った。同時に、ガイドライン、規程、マニュアルの再確認を行った。 2. 学生対象の「アンケート」を3年毎の学生生活調査の中で行ってきたが、委員会独自のアンケートを共学化の1年後に向けて準備した。 3. 英文ガイドラインの整備に向けて、ガイドラインの文言を整理し、国際交流センターを通じて作成した。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかるために、「2010年～2011年上半期大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書を各研究室に配布した。その際、平成19年度の全学FD・SD研修会で事前配布した「ハラスメント行動の事例、注意すべき行動」を添付した。教職員に対しハラスメント防止の意識啓発へ一層の協力を求めた。 5. 平成23年度に受けたハラスメント事案は3件であったが、そのうち1件は本人の意向により委員会としての活動は行わず、記録の記載のみに留まった。 <p>点検評価</p> <p>平成 23 年度に課題として設定した全ての事項をほぼ達成することが出来た。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 FD・SD 研修会において国際化、共学化に向けた意識啓発の機会をつくる。 2. 共学になることを見据えて、相談員に男性を増員する。 3. 共学になることを見据えて、「アンケート」内容の検討を行う。 4. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：ハラスメント防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 7 月 27 日	1. ガイドラインの英文化について 2. 啓発文書である「2010 年～2011 年上半年期 大学関係ハラスメント事例と処分」の研究室配布について 3. 新入生へのリーフレットの配布について 学生課オリエンテーションで配布する 4. 相談員研修について
平成 23 年 9 月 6 日	相談員研修会 「ハラスメント相談の心得」 青柳先生 「規程、マニュアル、ガイドラインの確認」 永野委員長
平成 23 年 12 月 20 日	1. ガイドラインの英文化について 2. ハラスメント相談員について 3. ハラスメント事案について 4. 来年度の検討事項
平成 24 年 1 月 30 日	1. ガイドラインの英文化について 国際交流センターに依頼する 2. 平成 24 年度全学 FD・SD 研修会での啓発活動の申し入れについて 全学 FD 委員会へ申請映像を入手する方法を検討する。 3. 単位が関係するハラスメント事案について ハラスメントとしては異例の対応になる。個別の対応をどのようにするかは今後の課題 4. 平成 24 年度委員の交代について

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 2 級衣料管理士 (以下「2 級」) 課程廃止に伴う対応について 平成 24 年度入学生より 2 級課程を廃止し、現在 1 級衣料管理士 (以下「1 級」) 課程を有しているコース (テキスタイル企画・機能デザイン) 以外のコース (アドバンステクニック・クリエイティブデザイン・インダストリアルテクニック・ブランド企画) の取得希望学生にも、1 級取得を可能とするための対応を検討する。</p> <p>2. 定員について (1) 課程履修希望者が定員を超えた時の対応策について、更なる検討を行う。 (2) 衣料管理協会へ定員変更申請を申し出る。</p> <p>3. テキスタイルアドバイザー (以下「TA」) 実習について (1) 1 級課程履修者の増加による TA 実習先の企業開拓を行う必要がある。 (2) 事前教育と事後教育の実施方法・内容についての検討を行う。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2 級課程廃止に伴う対応について 平成 24 年度入学生より 2 級課程を廃止し (平成 24 年 2 月 7 日教授会承認) 服装造形学科全 6 コースで 1 級の資格取得を可能にする検討を行った。</p> <p>2. 定員について (1) 課程履修希望者が定員を超えた場合は、3 年次までの衣料管理士課程関連科目の単位取得者、さらに GPA (Grade Point Average) により決定することとした。 (2) 今年度の定員変更は、平成 24 年度 3 年生の履修者が減少するため、現行のまま 30 名とした。</p> <p>3. TA 実習について (1) 1 級課程履修者の増加による TA 実習先の企業開拓は今後も必要である。平成 23 年度は平成 22 年度より 1 件減少し 16 件であった。3 年生 9 人・4 年生 24 人が無事 TA 実習を終了した。 (2) 事前教育と事後教育の実施方法について 事前教育は昨年度と同様に 3 回に分けて実施し、事後教育は「TA 実習報告会」を行った。</p> <p>4. 「衣料管理士認定基準」の改正 (平成 23 年 9 月) について 平成 24 年度入学生より、TA 1 級の認定に必要な最低単位数は 43 単位となった。そのうち必修の単位数は「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の 24 単位、これに選択 19 単位～29 単位を加え、43 単位以上を履修とし、1 級認定申請となる。現行では、本学が科目指定している選択科目は 19～20 単位である。選択科目の中の協会が推奨する科目の中には、現行では本学が指定、あるいは開講していない科目もあり、追加指定あるいは新規開講について継続検討する。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 定員について 課程履修希望者が定員を超えた時の対応策の更なる検討を行う。</p> <p>2. TA 実習について (1) 1 級課程履修者の増加による TA 実習先の企業開拓を行う必要がある。 (2) 事前教育と事後教育の実施方法・内容についての検討を行う。</p> <p>3. 「衣料管理士認定基準」の改正について 協会が開講を推奨する選択科目について、引き続き検討を行う必要がある。さらに、選択科目を増やし、19 単位以上選択できるよう、新設科目の開講を検討する。 【大】</p>

検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成23年4月14日	1. 3, 4年資格履修者数の確認 2. 資格取得に関する時間割の検討 他
平成23年5月19日	1. 役割分担、スケジュールの確認 2. TA実習事前教育の日程、内容の検討 他
平成23年6月9日	1. 事前教育案の確認 2. 大学正会員申請について 3. カリキュラムの検討 他
平成23年6月13日	1. カリキュラムの検討(新設1科目、削除1科目)(平成23年10月11日教授会承認)
平成23年7月21日	1. 実習先の挨拶担当の決定 2. 実習事後報告会について 3. 後期授業案の確認 他
平成23年9月22日	1. 実習先挨拶の報告
平成23年10月20日	1. カリキュラム新基準の検討(シラバス新旧の確認、既存の科目との対応 他)
平成23年11月17日	1. カリキュラム新基準の検討(推奨選択科目と選択科目の検討 他)
平成23年12月15日	1. カリキュラム新基準の検討(選択科目の検討) 2. 主務教員会議の報告
平成24年1月12日	1. カリキュラム新基準の検討(新設科目の検討 他)
平成24年1月18日	1. 履修要項の検討(新基準対応の必修・選択科目の指定を確認 他)
平成24年2月9日	1. 履修要項の確認 2. カリキュラム新基準の課題 3. TA実習について
平成24年2月20日	1. 来年度の委員構成について

開催年月日	学生指導等の記録
平成23年4月6日	衣料管理士資格に関するガイダンス(服造1, 2年生対象)
平成23年7月14日	TA実習事前教育
平成23年7月21日	(1) 講演「TA実習事前教育」(社)日本衣料管理協会 事務局長 大谷 芳男氏 (2) 講演「TAとしての姿勢」(一財)ポーケン品質評価機構 日本橋ビーボラボ 所長 加茂 春樹氏
平成23年7月26日	(3) 委員長、副委員長、実習担当委員より、実習の心得、実習先と実習内容の説明。他
平成23年8月1日 ~9月9日	TA実習期間(うち5日間実習) 実習先16、1級4、3年生33人が実習。 期間中、実習先へ挨拶。
平成23年9月29日	TA実習事後教育「TA実習報告会」(1級3, 4年生参加)
平成23年9月22日	資格対応授業
平成23年10月6日	(1) オリエンテーション(1, 2級4年生対象)
平成23年10月13日	(2) 「論文」試験の要点解説
平成23年10月20日	(3) 「論文」模擬試験
平成23年10月27日	(4) 「論文」個別指導1
平成23年11月10日	(5) 「論文」個別指導2
平成23年11月17日	(6) 「論文」個別指導3(1級)「消費科学」要点解説(2級)
平成23年11月24日	(7) 「消費科学」外部講師の要点解説(1級)「消費科学」模擬試験(2級)
平成23年12月1日	(8) 「消費科学」「消費科学」個別指導1
平成23年12月8日	(9) 「消費科学」個別指導2、「論文」本試験(2級)
平成23年12月15日	(10) 「論文」本試験(1級)「消費科学」個別指導2
平成24年1月12日	(11) 「消費科学」「消費科学」本試験 (12) 衣料管理士資格取得に関する手続き等の説明
平成23年12月15日	日本衣料管理協会「衣料の使用実態調査」の説明会(1, 2級3年生対象)
平成24年1月11日	「衣料の使用実態調査」の回収、点検
平成24年3月2日	3月TA実習生(3年生2人)の事前教育(TA実習3月12日~16日実施)

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策の継続 2. インテリアプランナー資格における校名変更申請 3. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験の確認申請（更新申請）」への対応 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策の継続 (1) 資格取得対策講座の実施 造形学部では平成 21 年度から「大学教育・学生支援推進事業」の支援を受けて、就職支援・キャリア支援の事業を実施してきた。平成23年度も当該事業の支援のもとに「卒業生・在学生のためのキャリアアップ資格講座」として、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、マンションリフォームマネジャー、キッチンスペシャリストの4講座を実施した。その結果、インテリアコーディネーター以外の資格については受講者が少なく、資格講座の種類および内容について課題を残した。また、補助金に頼らない学内での恒常的な運営方法も今後の課題である。 (2) 在学生・卒業生の資格取得状況の把握 建築・インテリア学科では、毎年、卒業生については3月の卒業時に、在生については4月のオリエンテーション時に建築・インテリア系資格の受験および資格取得状況について調査している。このうち、建築士資格は卒業後に受験する資格であるため、これまで受験および資格取得状況については十分に把握できていなかった。そこで本年度は、メールアドレスが把握できている卒業生という限られた範囲ではあるが、一級建築士・二級建築士の受験および資格取得状況について調査した。情報公開の点からも、今後は卒業生についても体系的な受験状況把握のための仕組みを構築する必要がある。</p> <p>2. インテリアプランナー資格における校名変更申請 住居デザインコースの平成 20・21 年度入学生について、「変更申請（校名変更および専攻廃止）」を行った。また、インテリアファブリックコースの平成 21 年度入学生の「新規申請（新設）」ならびに住居デザインコースとインテリアファブリックコースの「新規申請（学科名変更）」を行った。その結果、平成 24 年 2 月 1 日付で財団法人建築技術教育普及センターから認定された。</p> <p>3. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験の確認申請（更新申請）」への対応 平成 24 年度のカリキュラム変更にあわせて、毎年実施する「建築士試験の大学院における実務経験の確認申請」において、変更のあった科目について「変更」および「軽微な変更」として財団法人建築技術教育普及センターに申請書類を提出した。その結果、平成 24 年 2 月 15 日付で認定され、平成 24 年 3 月 1 日に大学院生活環境学研究所委員会にて報告した。</p> <p>4. 商業施設士補資格のカリキュラム変更申請ならびに校名変更申請 住環境学科 3 年次の新カリキュラムについて商業施設技術者団体連合会に申請をした結果、認定された。あわせて校名変更についても認定された。（平成 23 年 11 月教授会承認） 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 平成 25 年度の建築・インテリア学科の新カリキュラムでの「建築士受験資格」の確認申請 2. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の確認申請 3. キャリアアップ資格講座の運営方法および内容の見直し 4. 卒業生・在学生の受験および資格取得調査の方法の見直しと PDCA サイクルの構築 5. 海外の建築・インテリア系資格の調査および留学生への広報・指導のあり方の検討 【大】</p>

検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 7 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアプランナーの個別認定の作業方法について 2. 商業施設士補の3年生の10月講習会受講の可能性について 3. 総合資格協会によるインテリアコーディネーター資格の模擬試験について 4. 総合資格協会による就職セミナーについて
平成23年10月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院の実務経験の確認申請の状況報告 2. 平成 22 年度「建築・インテリア関連資格試験の受験状況調査」の結果について 3. キャリアアップ資格講座の来年度以降の方針について 4. 卒業後の資格取得状況の把握について 5. その他
平成 24 年 1 月 27 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアプランナーの追加申請の報告 2. 商業施設士補の申請について 3. 総合資格協会による就職活動セミナーについて 4. 履修要項の「課程履修費」の記載文について
平成 24 年 3 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院の実務経験の確認申請の結果報告 2. インテリアプランナーの追加申請の結果報告 3. 商業施設技術者・団体連合会の会長賞の報告 4. 平成 24 年度のキャリアアップ資格講座について 5. 建築インテリア関連資格試験の受験状況調査について 6. 平成 24 年度の活動予定 7. その他

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム C (ヨーロッパ文化研修) は、2 コース体制維持の妥当性と研修内容を検討する。 (2) プログラム E (日本文化研修) は催行人数を確保するため、PR 活動などを検討する。 (3) プログラム A (アメリカ文化研修) はフライトの座席確保の困難と ESTA (電子渡航認証システム) の有料化のため、早期の段階で参加人数を確定する。</p> <p>2. 海外留学 (1) 新都心キャンパスの学生にもベルヴューカレッジへの留学希望者が存在するため、今後は両キャンパスで PR を進める。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム C (ヨーロッパ文化研修) は、昨年度まで「ロンドン・パリコース」と「イタリア・パリコース」の 2 コースで実施していたが、平成 23 年度は「イタリア・パリコース」を見直し「イタリアコース」とした。イタリアでの研修内容を充実させることと、1 カ国にして移動時間を減らすことが主な変更理由である。しかし実際には「イタリアコース」の実施可能人数を確保できず、「ロンドン・パリコース」のみ 44 人で実施した。 (2) プログラム E (日本文化研修) は、実施可能の 10 人を確保し実施した。 (3) プログラム A (アメリカ文化研修) は、出発 3 カ月前の 5 月末までに参加人数の確定に努めたが、経済的理由などで取消しを希望する学生が続出した。最終参加人数は新都心キャンパスも合せ 16 人で、催行は 6 月末に決定した。</p> <p>2. 海外留学 (1) 以前プログラム A に参加した新都心キャンパスの学生が、はじめてベルヴューカレッジへの留学を希望し、平成 24 年 3 月～平成 25 年 3 月まで語学留学をすることとなった。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム A (アメリカ文化研修) については、近年、参加学生の研修に対する意識の低下によりホストファミリーや引率教員にかかる負担が多くなっている。研修期間の短縮や研修の内容を再検討する必要がある。 (2) プログラム C (ヨーロッパ文化研修) の 2 コース体制維持の妥当性とコース内容のさらなる検討が必要である。 (3) プログラム E (日本文化研修) に関しては、新都心キャンパスと小平キャンパスの合同研修という形の可能性について検討する必要がある。 (4) 全プログラムに共通する問題だが、通常授業の出席状況や研修の説明会等への参加状況等、平素の取組み態度等を加味した研修の参加条件を規程化していく必要がある。 (5) プログラム D は現在開講されていないが、今後内容を含め検討していく。</p> <p>2. 海外留学 (1) 今年度希望者がいなかったシモンズ大学への留学を促す。 【大】</p>

検討組織名：文化・語学研修専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 8 日	1. プログラム C (ヨーロッパ文化研修)「ロンドン・パリコース」,「イタリア・パリコース」を本年度より「ロンドン・パリコース」,「イタリアコース」に変更することを決定
平成 23 年 5 月 2 日	1. プログラム A (アメリカ文化研修) プログラム C (ヨーロッパ文化研修) プログラム E (日本文化研修)の申し込み状況の報告
平成 23 年 6 月 18 日	1. 文化学園大学留学規程によるベルビューカレッジへの長期留学希望学生について (平成 23 年 6 月 21 日 現代文化学部教授会承認) 2. プログラム C (ヨーロッパ文化研修)の参加人数により、平成23年度は「ロンドン・パリコース」のみ実施することに決定
平成 23 年 12 月 2 日	1. プログラム C (ヨーロッパ文化研修)「ロンドン・パリコース」の参加学生について (平成23年12月13日 合同教授会承認) 2. プログラム E (日本文化研修)の詳細について
平成 24 年 1 月 20 日	1. 研修の参加条件について
平成 24 年 3 月 21 日	1. プログラム C (ヨーロッパ文化研修)「ロンドン・パリコース」の旅行業社選定について 2. プログラム E (日本文化研修)実施の報告と今後の検討について 3. 平成24年度のプログラム A (アメリカ文化研修)実施についての概要と各プログラムの位置づけの再検討の必要性について

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 平成 23 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 教育実習については、受講生における以下の状況、今年度の留学生別科の状況などを鑑み、4 年次履修生 5 人に対する有効な教育実習の方向を検討する。</p> <p>(1) 4 年次生は留学生 2 人を含む学生 5 人である。</p> <p>(2) 5 人のうち、4 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで時間調整の必要がある。</p> <p>(3) 留学生別科の入学生が平成23年度も 3 人のみという状況である。東日本大震災により発した原発事故以降、留学生の日本離れが顕著となっており、隣接されている日本語教育の場としての留学生別科をどのように活用できるかを検討する。</p> <p>2. 平成22年 4 月に健康心理学科が応用健康心理学科として開設した際に、心理学関連の資格が多数あることもあり、日本語教員養成課程は履修可能資格の中に取り入れられていない。健康心理学科では、取得可能な資格の一つと位置づけられていたので、応用健康心理学科の学生にも日本語教員養成課程履修が可能となるような方策を検討したい。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 日本語教育実習を履修する学生の配分の検討 今年度も留学生別科の学生は 3 人のみであったが、レベルが均一であり、学生たちが外部学生との交流にとっても積極的だったため、留学生別科において授業見学・授業実習を行うこととした。留学生別科の学生たちには事前に了解を得た。</p> <p>(1) 留学生 2 人を含め、5 人全員が留学生別科の授業の中で実習を行った。</p> <p>(2) それぞれの学生の空き時間に見学・実習を組むようにしたため、今年度の授業実習に関わる公欠の申請は行わなかった。</p> <p>(3) 3 人のクラスにおける実習であったが、副教材の作成・クラス活動のパラエティなど充実した実習ができた。</p> <p>2. 応用健康心理学科については、今のところ、学科本来の資格を中心としたいということである。また、学生からの資格取得に対する要望は出ていない。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 平成 24 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 平成 24 年度の教育実習については、受講生における以下の状況、留学生別科の状況などを鑑み、4 年次履修生 6 人に対する有効な教育実習の方向を検討したい。</p> <p>(1) 例年同様 4 年次生（留学生 1 人を含む学生 6 人）の実習先の検討が必要である。</p> <p>(2) 6 人のうち 4 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで活躍している学生たちである。本年同様時間調整の必要がある。</p> <p>(3) 留学生別科以外の実習の場としてタイ泰日工業大学の学生の短期研修等の活用を検討する。</p> <p>2. 本課程の履修方法を徹底する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成 23 年 4 月 中旬～下旬</p>	<p>1. 各委員に口頭にて今年度の状況を説明の上、教育実習担当者から以下の項目について確認し、承認を得た。</p> <p>(1) 教育実習先への実習生の配分について</p> <p>(2) 教育実習の一環として「留学生別科」の授業を利用することについて</p>
<p>平成 23 年 6 月 21 日</p>	<p>1. 現代文化学部教授会にて、日本語教育実習一覧表を配布し、日本語教育実習の修了を報告した。</p>
<p>平成 24 年 2 月 1 日</p>	<p>1. メール連絡により、平成23年度修了生について確認し、承認を得た。</p>
<p>平成 24 年 2 月 7 日</p>	<p>1. 合同教授会（遠隔）にて、委員会での修了生の承認について報告した。</p>

本年度の課題 (平成 23 年度)	1. けやき祭における児童英語教室をよりインタラクティブな内容とするように充実をはかる。 2. 3 年生の課程履修者が英語を通して実際に児童に接する機会として、コミュニティーオープンカレッジのティーチング・アシスタント(以下「TA」)として入る計画を進めていく。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. けやき祭の児童英語教室では、子ども達一人一人のバースディケーキを紙工作しながら色や数を英語で確認するなど、インタラクティブな授業が展開できた。 2. 3 年生の課程履修者がコミュニティーオープンカレッジに TA として入り、本学教授による児童英語講座の授業を補助することにより、実際に児童と接しながら大きな学びを得た。 【大】
次年度への 課 題 (平成 24 年度)	1. 本課程の最終履修者となる新 4 年生 1 人に、江戸川区立船堀小学校でのすくすくスクールにおける児童英語教室を担当させることで、実習の場を設ける。 2. 平成23年度のけやき祭児童英語教室において、児童の座る椅子にそれぞれ個性的な飾りつけを施し、教室全体の装飾をよりアーティスティックな雰囲気にしたところ、児童が大変喜んで参加していたので、次回も視覚的に楽しめる場を演出したい。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 11 日	本委員会委員ならびに、児童英語関連科目を担当する非常勤講師が集まり、本年度の体制について話し合った。
平成 23 年 5 月 10 日	本委員会委員とけやき祭児童英語教室担当チーフで会議を開き、各セッションの方針や教室のレイアウト等を決めた。
平成 23 年 5 月 28 日	小平キャンパスコミュニティーオープンカレッジの本学教授による児童英語講座を、課程履修者が見学し、次回から TA をつとめるための打ち合わせをした。
平成 23 年 6 月 3 日	本委員会メンバーと課程履修者でけやき祭児童英語教室の会場装飾を仕上げ、学生に最終の練習をさせた。
平成 23 年 6 月 4 日	小平キャンパスで開催されるけやき祭において、児童英語教室を設けた。
平成 23 年 6 月 11 日	小平キャンパスコミュニティーオープンカレッジの本学教授による児童英語講座で、課程履修者が TA をつとめた。
平成 23 年 6 月 18 日	
平成 23 年 6 月 25 日	
平成 23 年 7 月 2 日	
平成 23 年 7 月 11 日	本委員会と課程履修者で、けやき祭児童英語教室の反省会をもった。
平成 23 年 7 月 25 日	本委員会と課程履修者で、コミュニティーオープンカレッジにおける児童英語講座の反省会をもった。
平成 23 年 8 月 4 日	本委員会委員長と、児童英語教育実習担当の非常勤講師が、平成 24 年度の実習先と内容について話し合った。
平成 23 年 9 月 6 日	委員会を開き、教育実習の量的見直し等について検討した。
平成 23 年 9 月 9 日	本委員会副委員長と課程履修者が、江戸川区立船堀小学校におけるすくすくスクールで、児童英語教室を 4 クラス担当し、最終クラス後に反省会をもった。
平成 23 年 9 月 12 日	
平成 24 年 3 月 16 日	委員会を開き、平成 23 年度の結果を踏まえて平成 24 年度の方針を決定した。

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 査読制度の運用方法について 未だ検討すべき部分もあり、執筆者の反応を見ながら適宜調整してゆく必要がある。編集スケジュールについても査読者の審査期間を十分にとったものへと見直しを進める必要がある。</p> <p>2. 非常勤講師への案内について 投稿数を十分に確保するためにも、案内方法を含め再検討をし、周知を徹底する必要がある。</p> <p>3. 会議の開催方法について 対面会議とメールなどの手段による書面会議について、紀要の編集にあたって省力化の必要な部分と、顔をあわせての確認が必要な部分とを考慮し、上手くバランスをとる必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 査読制度の運用方法について (1) 紀要「服装学・造形学研究」第 43 集より、従来の助言者制度を拡大するかたちで「研究論文」に対する査読制度を導入した。「執筆要項」を改訂して「査読者と審査について」という 7 項目を設けるとともに、査読者には「査読要項」のなかで 5 項目のガイドラインを示した。本登録件数をみても、前年度に比べて投稿数が 15 件と倍増した。また大学の名称変更を契機に、版型を A4 版に大型化することで、図版の見やすさを改善するとともに、編集作業の効率化も図ることができた。</p> <p>(2) 平成 24 年 2 月に投稿者および査読者について、自由回答で査読制度への意見を求めた。その結果は査読制度を支持する回答が多かったが、査読期間や査読者と投稿者との修正項目のやりとり等への貴重な意見が寄せられた。</p> <p>2. 非常勤講師への案内について 非常勤講師への案内については、講師室への掲示だけでなく、授業補助担当の各研究室にも投稿案内を配布することで、周知を徹底することができた。</p> <p>3. 会議の開催方法について 会議の開催方法については、査読制度の導入に合わせて編集スケジュールを見直すことで対応した。特に査読に関する審議については、委員会の回数を増やして対面により十分な議論を行った。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 査読制度の円滑な運用について 投稿者および査読者から寄せられた査読制度への意見を委員会において十分に検討して、査読制度の円滑化とともに査読項目の充実を図り、査読制度の運用のあり方をさらに改善していく必要がある。</p> <p>2. 編集スケジュールについて 編集スケジュールについても査読者の審査期間を十分にとったものへと見直しをすすめ、また投稿者の修正内容について査読者へのフィードバックを行うため、原稿の修正期間についても見直す必要がある。</p> <p>3. 制作・表現系統の投稿論文について 「査読要項」のなかで示した 5 項目のガイドラインについては、人文学、服装学などの研究論文を想定したため、造形学における制作・表現系統の投稿論文への対応が十分とは言えなかった。このことを踏まえて、ガイドラインの項目の見直しをする必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読制度の実行に向けた検討 2. 紀要冊子のデザイン変更に関する検討 3. 紀要第 43 集 編集スケジュール確認
平成 23 年 6 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要第 43 集 予備登録者の確認 2. 査読ガイドラインおよび査読者候補の検討 3. 紀要冊子のデザイン変更に関する検討
平成 23 年 7 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読ガイドラインの検討および査読者候補の選定 2. 本登録後の追加登録に関する検討 3. 紀要冊子のデザイン変更に関する検討 4. 紀要の送付先（他大学等）に関する確認
平成 23 年 9 月 6 日	<p>紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」との合同開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要の送付先（他大学等）に関する検討 2. 紀要冊子のデザイン変更に関する検討 3. 査読の実施に関する意見交換等
平成 23 年 9 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要第 43 集 本登録者の確認 2. 査読者および担当委員の選定 3. 原稿提出要領の確認 4. 編集スケジュールの確認
平成 23 年 10 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投稿者より原稿受取り 2. 査読者および査読原稿受渡しについての確認 3. 配付数調査結果および印刷部数の確認 4. 印刷業者入札
平成 23 年 11 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読結果の確認および採録可否に関する確認・検討 2. 印刷業者入札結果の確認 3. ネイティブチェックの実施方法についての確認
平成 23 年 11 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読後の修正原稿の受取り 2. 採録可否についての確認 3. ネイティブチェックの実施方法についての確認
平成 23 年 12 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 印刷業者への入稿 2. 編集スケジュールの確認 3. 次年度の査読制度実施に向けた検討
平成 24 年 1 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 印刷業者への初校戻しおよびインターネット等公開許諾書の配付 2. 次年度の査読制度実施に向けた検討
平成 24 年 2 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 印刷業者への再校戻し 2. 執筆者・査読者向けアンケート結果の確認および次年度に向けた検討
平成 24 年 3 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要の納品・配付作業 2. 請求書・PDF データ・公開許諾書等の受取りに関する確認 3. 平成 23 年度自己点検・評価（反省点・改善点）について

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 紀要の更なる質的向上のための工夫が必要である。そのために特に求められるのが、適切な査読者と査読方法である。</p> <p>2. 編集作業のスケジュールにおいて、修正すべき点を確認する必要がある。特に、再校のスケジュールがタイトになる傾向があるので、改善の余地がある。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 紀要の更なる質的向上に関して</p> <p>(1) 査読者の選定に関しては、論文の専門領域に近い査読者と協力者(2人)を得ることができた。2人の協力者は、委員会と適切かつ十分な連絡をとりながら綿密な査読作業に従事してくれた。その結果、紀要論文の質的向上に効果が認められた。</p> <p>(2) 査読方法に関しては、第一査読者の報告を聞いた後、本委員会が更なる査読が必要であると判断した場合は、第二査読者を選定することになっている。今回の編集過程において、これに該当するケースが1件あり、2人の査読者からの報告を得ることができた。その結果、該当論文に関して複数の評価報告を得ることができ、本委員会が客観的な判断を下す際に役立った。</p> <p>2. 編集作業のスケジュールに関して</p> <p>平成23年度の編集作業において、再校のスケジュールに関しては若干の改善がみられた。しかし、平成 22 年度と比べて、三校から校了のスケジュールに遅延が生じた。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 紀要の更なる質的向上のための工夫が必要である。大学の紀要はその大学の研究水準が明確に映し出されるので、その質的向上は常に求められるべきものであろう。</p> <p>2. 編集作業のスケジュールにおいて、改善すべき点を確認する必要がある。例年再校のスケジュールがタイトすぎるという指摘が執筆者から寄せられ、今年度はこの点において一定程度の改善を加えられたと考える。しかし、最後の校正作業(紀要委員による三校)から校了に至る期間が若干長くなってしまった。この理由としては、紀要編集委員会の編集作業の日程の遅延に加えて、印刷業者の側の事情も存在した。いずれにしても、発行の時期を変えずにより入念な校正作業が可能となるようなスケジュール調整を検討する必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名： 紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 6 月 22 日	1. 予備登録の集計と検討 2. 「原稿の提出について」(執筆要領)の作成
平成 23 年 9 月 6 日	紀要編集専門委員会合同会議(新都心キャンパスにおいて) 1. 『服装学・造形学研究』の版型と表紙の変更について 2. 紀要の送付について 3. 『服装学・造形学研究』編集における査読制度の導入について
平成 23 年 9 月 13 日	1. 『人文・社会科学研究』の版型と表紙について(変更なし) 2. 紀要の送付について(継続を決定) (1, 2 平成 23 年 10 月 18 日 教授会承認)
平成 23 年 10 月 5 日	1. 投稿論文の確認 2. 第一査読者の選定
平成 23 年 10 月 26 日	1. 第一査読の結果報告 2. 第二査読者の選定
平成 23 年 11 月 2 日	1. 第二査読の結果報告
平成 23 年 11 月 16 日	1. 掲載論文の最終決定 2. 執筆者への「校正の手順」の作成 3. 印刷業者の検討
平成 24 年 1 月 10 日	1. 執筆者より戻された初校のチェック
平成 24 年 2 月 1 日	1. 執筆者より戻された再校のチェック
平成 24 年 2 月 7 日	1. 三校を編集委員でチェック 2. 印刷業者に三校を引き渡す(校了) 3. 印刷部数、抜粋部数、送付先、納品日の確認
平成 24 年 2 月 29 日	1. 『人文・社会科学研究』第 20 集に関する反省会

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討 2. 学生の審査、教育実習認定評価の基準など、選抜、評価に関する検討 3. 新入生に対する教職課程履修を喚起させる方策の検討 4. 新設科目「教職実践演習」の準備 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力、専門学力の両方において学生間に差がみられるため、一層の個別指導が必要となる。学生の来訪を待つのではなく、各教員が早めの声掛けを継続する必要がある。 2. 教育実習履修者審査、教育実習単位認定審査とも従来の方法で行った。客観的・総合的判断の基準を明確にする見直しが必要である。教育実習履修者審査については、申し合わせ事項を作成し客観的な判断ができるように検討を始めた。 3. 新入生オリエンテーションにおける教職課程の説明を丁寧に行い、1年次にはしっかりとした履修意志を確認したが、2年次の辞退者が多かった。当初の履修意志が曖昧、進路変更、教職への魅力の低減等、多様化している履修辞退理由を分析して、よりの確な個々への対応と指導が必要である。 4. 「教職実践演習」にむけて平成 22 年度入学生より、教職に関する専門科目担当教員は個別学生の教職課程カルテを記入し、学生は教職課程履修ノートを記入して学習状況の自己評価、履修意志の確認を行っている。継続して行っている教職に関する専門科目担当者懇談会は、問題点を共有・検討する組織として機能している。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。継続課題。 2. 教育実習履修者審査、教育実習単位認定審査など、選抜、評価に関する検討。継続課題。 3. 新入生に対する教職課程履修を喚起させる方策及び教員を目指す意識を向上させるための方策の検討 4. 新設科目「教職実践演習」の準備。教職課程カルテと教職課程履修ノートの活用。 【大】

検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 5 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新任委員の紹介 2. 平成 23 年度教職課程履修者数 3. 平成 24 年度教育実習履修審査 4. 平成 23 年度教育実習日程 5. 平成 23 年度介護等体験事前指導
平成 23 年 7 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度教育実習中間報告 2. 平成 23 年度介護等体験日程 3. 教職必修科目及び教職に関する専門科目の授業内容（シラバス）の点検について 4. 平成 24 年度服装学部服装社会学科のカリキュラム変更に伴う教職必修科目の変更に ついて
平成 23 年 10 月 4 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職必修科目及び教職に関する専門科目の授業内容（シラバス）の点検の報告 2. 教職に関する専門科目担当者懇談会報告
平成 23 年 12 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度「教育実習」単位認定審査 2. 平成 23 年度介護等体験中間報告
平成 24 年 3 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度教育実習報告及び反省 2. 平成 24 年度教育実習関連報告 3. 平成 23 年度介護等体験報告及び反省 4. 教育実習履修者審査申し合わせ事項の検討について 5. 「平成 23 年度自己点検・評価報告」内容の確認

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直し 2. 本学博物館の特徴をいかした博物館実習のあり方の検討 3. 博物館学芸員の資格を活かした就職活動範囲についての検討 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 博物館実習の構成は学内実習と館園実習となっている。学内実習で学んだことを如何に効果的に実際の館園実習で体験し、理論と実際を実践的に学ぶことができるかがポイントであるが、館園実習はどうしても部分的な実習になる傾向があり、博物館業務の全体像を経験することが不足する傾向にある。このことから館園実習については、展示企画に含まれる業務と、博物館の運営管理業務に関係するものの二つにグループ化して実習を組み立てる方向が示された。特に展示企画に関する実習については学習効果を高めることができる実習時期の問題と、必要な実習内容項目について、さらに検討していくことが確認された。 2. 服飾関連を中心とする博物館として、一般的な博物館展示実習に留まらず、収蔵品の保存などに関して「より良い状態での扱いと保存とは何か」など、展示から保管までの広い知識や科学的視点による保管に関する考え方を取り入れた具体的実習なども今後積極的に検討していくことを確認した。 3. 博物館学芸員の資格を活かした就職活動範囲の検討については、就職先としての博物館における雇人数と雇用形態について、現実的な大きなハードルがある。学芸員課程で学んだことが活かされるような雇用の場や雇用環境調査を継続検討していく。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直しの継続 2. 博物館法の省令改正に伴い、博物館学芸員養成科目の変更により再考される時間割と、他の専門科目との時間割の適正な関係の検討 3. 現代的要請を捉え、広く社会に向けて開かれた博物館活動についての事例の調査と検討を進める。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 2 月 28 日	<p>実習に関連しての担当者との小会議 (1) 博物館実習について、学生より外部実習の希望が寄せられたため、これを確認して許可 実習先：財団法人横山大観記念館</p>
平成 23 年 7 月 25 日	<p>報告 1 件 (1) 博物館実習授業に関連し、学生が必要とする他の多くの博物館見学をよりバックアップすることを目的として、課程履修の最終年度の学生全員に、「ぐるっとパス」を配布することが決定したことを報告</p>
平成 23 年 12 月 14 日	<p>報告 1 件 (1) 文部科学省の省令改正に伴う、学芸員養成課程の科目変更による届け出を終了したことを以下のように報告 文大第23071号 平成23年12月8日 文部科学省生涯学習政策局宛 (2) このたび平成24年4月1日から施行される博物館法施行規則第 1 条の規定により大学において履修すべき博物館に関する科目について別添え資料を添えて届け出る。 (3) 実際の運用については、平成 24 年 4 月からの施行（平成 24 年度入学生から適用）となるが、旧カリキュラムの学生（平成 23 年度入学生まで）は旧科目での認定となる。混乱が生じないように教務と確認していくことを報告</p>
平成 24 年 1 月 25 日	<p>(1) 次年度の課題につき、省令改正に関係して検討を進めていく項目と、博物館活動をより活発にしていこうための方策について、3 案を委員に提示し意見を求める。</p>
平成 24 年 2 月 14 日	<p>(1) 委員より寄せられた意見を集約し、平成 24 年度における課題について 3 項目を決定する。 (2) 特に現代的要請に関連しての博物館活動のあり方を検討していく項目を新たに加え、地域社会との関係や学校教育とのかわりなどの事例研究を進めることを確認。</p>

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 平成24年度生から適用する新カリキュラムを作成し、文部科学省の資料要求に対応する。 この中で、魅力あるカリキュラム・授業内容が構築できるよう取り組む。</p> <p>2. 司書課程履修者が増えるよう、学生の履修しやすい工夫を検討して実施する。</p> <p>3. 図書館への就職希望者を支援する。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 司書課程の新カリキュラムを作成し、関係部門に協議のうえ文部科学省に提出した。 新カリキュラムは平成24年度生から学年進行で開講する方針とし、そのカリキュラム・授業内容は、社会の変化に対応し時代の要請に応えられる図書館員を養成できるよう検討した。その結果、本学は科目内容が適正との文部科学省生涯政策局長名の確認通知(平成24年3月15日付)を受領した。</p> <p>2. 司書課程履修者が増えるよう、学生の履修しやすい工夫を検討して実施した。 平成22年度に引き続き、主に新都心キャンパスの学生の学芸員課程履修者対応のための集中講義を3科目開講するとともに、1科目については主に授業している土曜日以外に授業を行ったが履修者増にはつながらなかったため、引き続き、工夫等の改善が必要となった。</p> <p>3. 図書館への就職希望者を支援する。 図書館司書の募集情報を受講生に提供して、職員募集への応募を奨励した。また、卒業生から就職に関する相談が数件寄せられ、対応した。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 平成 24 年度生から適用する新カリキュラムに計画的に移行するとともに、授業内容がより魅力あるものとなるよう取り組む。</p> <p>2. 司書課程履修者が増えるよう、学生が履修しやすくなるように工夫し取り組む。</p> <p>3. 在学生のみならず、卒業生も含め図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 5 月 6 日	1. 新カリキュラムの申請の移行計画の考え方について
平成 23 年 5 月 7 日	1. 平成 23 年度授業計画について 2. 司書課程のカリキュラム改定(案) 新カリキュラム移行計画、新カリキュラムの科目の教員の分担、必修と選択の分担、選択科目の開講計画について
平成 23 年 5 月 13 日	1. 司書課程カリキュラム改定(案) について審議 (平成23年10月18日 現代文化学部教授会承認)
平成 23 年 7 月 9 日	1. 平成 24 年度司書課程教員体制について
平成 23 年 9 月 3 日	1. 新課程設置にむけた申請について
平成 23 年 10 月 6 日	1. 新課程設置にむけた申請について
平成 23 年 11 月 25 日	1. 新課程設置にむけた申請について 2. 平成 24 年度時間割編成方針について
平成 24 年 3 月 21 日	1. 平成 23 年度全学自己点検・評価報告書について 2. 司書課程新カリキュラムについて 科目内容が適正との文部科学省からの確認通知(平成24年3月15日付)受領の報告

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. ニューヨーク州立ファッション工科大学 (FIT) とノッティンガム・トレント大学 (NTU) への留学をさらに活発なものとし、留学予定者への現地情報の提供、心構え等、事前教育の方法を検討する。</p> <p>2. 海外提携校やボーンマス美術大学 (AUCB) との交流をさらに活性化する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. FIT、NTU、AUCB への留学希望者を募り、FIT 4 人、AUCB 2 人の留学を認める、という結果を得た。これら留学予定者には、現地情報の提供や心構えについては国際交流センターで、事前教育については担当教員やカウンセラーがあたることとした。なお、本学に学ぶ留学生が、さらに海外提携校へ留学を希望する件につき議論がなされたが、現行規程には特に定めがないため、今年度はそのまま規程に則り判定することとした。</p> <p>2. タイ泰日工業大学語学研修を平成24年5月中旬から6月中旬にかけて実施することとし、タイからの留学生受入れにも積極的にあたることを当該大学副学長とも確認しあうことができた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 海外提携校が増加する一方で、「ファッション」関連領域のみならず、「造形・デザイン」分野への留学 (含、交換留学) も可能になりつつあるので、学生への留学に関する情報提供を綿密に行う方策が必要である。</p> <p>2. 留学希望者の留学許可の判定と、留学中の授業料の取扱い、留学前準備と留学中のケア、留学終了後の成果報告等、一連の対応を、より精査することとする。特に、留学制度推進のための寄付金制度を本格的に稼働させる。</p> <p>3. 海外提携校と本学との間での「短期研修」(派遣・受入れ) については、一定の基本原則を明文化する必要がある。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成23年 11 月 22 日</p>	<p>3. AUCB 半年間特別留学プログラムについて 留学希望者数、説明会等の状況報告。学費に関する検討。</p> <p>4. 平成 24 年度海外提携校等の本学における研修の実施について (1) タイ泰日工業大学語学研修 平成 24 年 5 月中旬から 6 月中旬にかけて実施する方向で検討する。 (2) 原発問題に関わる節電計画のため、平成 24 年 7 月 9 日 (月) から、定期試験が開始されるまでの期間に限り、引き受けることとする。</p>
<p>平成 24 年 1 月 10 日</p>	<p>1. FIT・AUCB 留学希望者最終判定について 留学希望者合格判定 (FIT 4 人、AUCB 2 人) 今後は本委員会が中心となり、出発前のオリエンテーション、留学中のサポート等で、特に学生のメンタル面のフォローを行う。</p> <p>2. 文化学園大学 AUCB 特別留学プログラム実施要項 (案) について 別紙配布資料の通り承認。今後は留学プログラムのさらなる活性化に取り組む。また、在學生を海外提携校等に送り出す際の財政的基盤を構築するためにも寄付金制度等を整える。</p>

附 属 機 関

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新都心キャンパス図書館の開館時間延長 2. 図書館システム入替による利用者の利便性拡大 3. 有料オンライン情報(オンラインデータベース、レファレンス資料など)の拡充 4. 文化学園リポジトリの推進 5. 時代に即した環境とサービスの提供 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新都心キャンパス図書館の開館時間延長 通常期、試験期、短縮期の平日開館時間をそれぞれ 30 分延長した。しかし節電のため、繁忙期(7月)の休校や夏期休暇中のキャンパス閉鎖の影響もあり入館者増にはつながらなかった。短縮開館日は延長の結果、閉館間際までよく利用されている。開館時間については利用実態を踏まえ引き続き検討課題としたい。 2. 図書館システムの入替による利用者の利便性拡大 (1) WebOPACにサジェスト機能、横断検索機能が加わり、検索結果の表紙画像表示も可能になった。また、表示情報が増え検索スピードもアップした。 (2) WebOPACの個別「利用者サービス」の利用申請が不要になった。同サービスに、気になる資料データをストックできるMy本棚、指定した分野の到着資料通知などの新機能も加わった。 3. 有料オンライン情報(オンラインデータベース、レファレンス資料など)の拡充 「Berg Fashion Library」「Library Press Display」「Vogue Archive(US版)」「Japan Knowledge」を新規導入した。また、今後の利用者ニーズを調べるため「NetLibrary」(法人向電子書籍サービス)等のトライアルを実施した。 4. 文化学園リポジトリの推進 紀要論文や学術論文、文化ファッション研究機構の報告に加え大学教員研究作品展出品作品の登録を開始した。 5. 時代に即した環境とサービスの提供 (1) 図書館ホームページに「図書館だより」(No153~)の本文をPDFで公開した。また公開許諾のない号は目次を公開した。 (2) 個人用PCでインターネット利用可能な有線・無線LANエリアと利用方法について広報した。 (3) スキャナーコーナーの利用増加に応え、スキャナーの台数を増やした。 6. その他 (1) 文化祭にあわせて「かわいい!きれいな本 ~デジタルアーカイブでGO!~」と題し、16~20世紀の貴重書コレクションの中から、実物とデジタル画像を展示した。アーカイブ画像を加工したブックカバーを希望者に配布し好評だった。 (2) 服飾関連雑誌バックナンバーの所蔵データ遡及入力(3カ年計画・完成年度)を行なった。また、遡及未入力図書の探索を行い確認作業が完了した。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子書籍(e-book)の導入による時代に即した資料提供 2. 利用者の多目的なニーズに応えるためのグループ学習室の開設(新都心) 3. 設備整備による環境の向上(新都心館スキャナーコーナーの拡充、閲覧室の椅子張替えなど) 4. 図書館間相互協力複写料金の図書館一部負担の実施 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
平成 23 年 7 月 20 日	1. 平成 22 年度業務報告 2. 平成 23 年度業務計画・資料費予算 3. 意見交換 ほか
平成 23 年 12 月 6 日	1. 平成 23 年度上半期業務報告 2. 平成 24 年度業務計画案・予算案・図書館開館日程案の審議 3. 意見交換 ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成 23 年 4 月 1 日	1. 平成 23 年度組織・委員会編成 2. 各課業務分担 3. その他の業務分担
平成 23 年 5 月 31 日	1. 各課報告 2. 自己研鑽について 3. その他の業務連絡
平成 23 年 6 月 30 日	1. 節電対策による休校対応 2. 新図書館システム 3. 文化祭展示 4. その他の業務連絡
平成 23 年 9 月 30 日	1. オンラインデータベースのトライアル実施 2. リポジトリ進捗状況 3. 文化祭展示進捗状況 4. その他の業務連絡
平成 23 年 11 月 30 日	1. 平成 24 年度業務計画案・予算案・図書館開館日程案 2. 図書館改装(以下改装)案 3. その他の業務連絡
平成 24 年 1 月 31 日	1. 平成 24 年度図書館予算 2. 平成 24 年度開館日程案の訂正事項 3. 改装計画案 4. その他の業務連絡
平成 24 年 2 月 29 日	1. 各課・業務分担グループ・プロジェクト等報告 2. 分科会発表報告 3. その他の業務連絡

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成 23 年 4 月 26 日	1. 平成 23 年度予算 2. オリエンテーション 3. 他大学紀要受入中止の件 4. 除籍決定の流れ 5. 共有フォルダの使用法 6. 専門分野の選書 ほか
平成 23 年 5 月 24 日	1. 省電力の対応 2. 太田臨一郎氏寄贈資料 ほか
平成 23 年 6 月 21 日	1. 新システム移行仕様 2. 貴重書バーコードの扱い ほか
平成 23 年 7 月 19 日	1. 新システム個別「利用者サービス」の運用 2. 図書館委員会打合せ 3. 会計検査報告 ほか
平成 23 年 8 月 30 日	1. WebOPAC の新機能 2. 平成 24 年度業務計画検討 3. 電子書籍予算化 4. 課員外部研修 5. ライブラリー・オブ・ザ・イヤーほか
平成 23 年 9 月 27 日	1. 改装計画 2. 平成 24 年度予算案 3. オンラインデータベーストライアル 4. 紀要発送ほか業務の見直し 5. リポジトリ進捗状況 6. 小平 K 館書庫 ほか
平成 23 年 10 月 25 日	1. 平成 24 年度業務計画 2. 図書館間相互協力複写料金の図書館一部負担 ほか
平成 23 年 10 月 31 日	1. 改装計画 2. 平成 24 年度臨時雇員採用 3. 石山彰元館長の蔵書 4. 施設申請 ほか
平成 23 年 11 月 16 日	1. 「図書館だより」ホームページ公開 2. 改装 3. 平成 24 年度予算 ほか
平成 23 年 11 月 25 日	1. 平成 24 年度開館日程案 2. 電子書籍予算 ほか
平成 23 年 11 月 29 日	1. 平成 24 年度業務計画案・予算案 2. 図書館ホームページ ほか
平成 23 年 12 月 6 日	1. 図書館委員会打合せ ほか
平成 24 年 1 月 30 日	1. 業務の省力化 2. 錦絵保存フォルダ入替作業 ほか
平成 24 年 2 月 7 日	1. 平成 24 年度予算案 2. 改装計画案 3. 資料の扱い ほか
平成 24 年 3 月 13 日	1. 平成 24 年度組織編成および副館長着任報告 2. 改装計画案進捗状況 ほか

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示：服飾博物館における年 4 回の企画展示及び館外展示を行う。 2. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 印刷物の作成：『文化学園服飾博物館だより』、展示図録等の作成。 7. ホームページの更新。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加をはかる。 9. 服飾に関する調査活動（染色用型紙の調査、『被服』の調査） 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾博物館における年 4 回の企画展示の他、北竜湖資料館での展示を行った（展示名、会期などは「会議等の開催記録」参照）。また、所蔵資料を貸し出すなど（2 件）館外の展示に協力した。 2. 資料収集：特に 1960-70 年代の西洋のドレスの収集に力を入れた。国内の業者からだけでなく海外の業者からも資料を購入し、より充実した収集活動を行うことができた。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用：平成 20, 22 年度収集資料のテキスト及び画像のデータベース化を行った。 4. 所蔵資料の写真撮影：平成 20, 22 年度収集資料についての撮影を行った。 5. 所蔵資料の整理・保存：専用の資料整理箱の作成、整理棚の整備、資料の燻蒸等を行った。特に、日本近代の軍服、ドレス類などの洋服や、傷みのある小袖類の保存状態が改善できた。 6. 印刷物の作成：『文化学園服飾博物館だより』、『世界の絨』展の図録と目録を作成した。 7. ホームページの更新：会期ごとの情報更新の他、随時、最新情報の更新を行った。 8. 博物館の本学学生利用の促進と外部利用者の増加：学内のポスター掲示、チラシの PDF データ作成、教職員へのメール配信等を行った。また、「ぐるっとパス」への参加、近隣住民、渋谷区民を対象としたギャラリー・トークを行うなど、外部利用者数の増加をはかった。 9. 染色用型紙は、採寸や商印などの基本調査を終え、データの入力を行った。『被服』に関しては本のスキニングを行った。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示：服飾博物館における年 4 回の企画展示、及び館外展示を行う。 2. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 印刷物の作成：『文化学園服飾博物館だより』、展示目録等の作成。 7. ホームページの更新。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加をはかる。 【共】

検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 13 日 ～ 6 月 11 日	「ヨーロッパ・モード」展（学内は 4 月 5 日より開催） 会場：服飾博物館
平成 23 年 4 月 22 日 ～ 10 月 31 日	「郷土玩具・ロシアと周辺諸国の民芸」 会場：文化学園北竜湖資料館
平成 23 年 7 月 5 日 ～ 9 月 24 日	「暑さと衣服 - 民族衣装にみる涼しさの工夫 - 」展 会場：服飾博物館
平成 23 年 9 月 7 日	博物館運営・専門委員会 平成 22 年度報告、平成 23 年度計画、意見交換
平成 23 年 10 月 14 日 ～ 12 月 17 日	「世界の絁」展 会場：服飾博物館
平成 24 年 1 月 27 日 ～ 3 月 14 日	「ペイズリー文様 - 発生と展開 - 」展 会場：服飾博物館

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生のみならず日本人の留学希望者をも含めた全ての学生のニーズを正確に把握するため、平成22年度までの「留学生センター運営委員会」を「国際交流センター運営委員会」と名称を改め、各校の担当教職員との意見交換を活発に行う。 2. 留学生同士、または日本人と留学生が活発に交流できる行事や、留学生の日本文化理解を助けるための行事を提供する。 3. 国際交流センター(留学生センターを含む)の学生利用を促す。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「留学生センター運営委員会」の名称を今年度より「国際交流センター運営委員会」に改めた。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 留学生センターに関するだけでなく、国際交流センターの運営全体に関してより広く各校からの意見を聞くため、平成 23 年度より運営委員会の名称を「国際交流センター運営委員会」と改め、審議の範囲を拡大した。これにより各学校担当者との意見交換の機会を年度内に 4 回設けることができ、これまでよりさらに幅広い課題を検討することができた。 (2) 国際交流センター運営委員会の中で決定した「文化学園スチューデント・アンバサダー制度」について募集活動を開始し、面接と研修を経て 22 名(うち大学の学生は 13 名)の学生が登録した。10 月から活動を開始し、国際ファッション工科大学連盟(IFFTI)の理事会昼食会や海外からの来訪者への学校案内や日本紹介など、アンバサダーの学生たちは意欲的に交流活動ができた。 (3) 運営委員会の中でも話題に上った海外留学説明会やセミナーを、留学や海外コンテストへの挑戦を考えている学生に向けて 5 回にわたり開催し、各回 15~30 名が参加した。 2. 留学生センターにおいて、学生同士の交流イベント「英語カフェ」、「スポーツ交流会」と、日本文化理解のためのイベント「ゆかた着付け体験」、そして新たに「かきぞめ会」を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「英語カフェ」では毎回 10 名前後の学生が集まり、国際交流センターのネイティブスタッフを進行役に、異なる学校の学生同志が英語という共通言語を通して楽しく交流することができた。毎週 1 回 1 時間のペースで 4~7 月に 12 回、1~2 月に 7 回実施した。 (2) 「スポーツ交流会」は留学生 20 名、日本人学生 27 名の計 47 名が参加し、12 月 6 日に本学バドミントン部の協力によりバドミントン大会が行われた。留学生も日本人も互いの交流のためのきっかけ作りとなった。しかし東日本大震災による節電の影響で、例年のような 6 月開催が難しく、当初予定していた年 2 回の開催は困難であった。 3. 国際交流センター・留学生センターの場所と活動内容を記したチラシを各校の新入生オリエンテーションの際に配布し、本センターのスタッフが説明を行った。また、ポスター掲示、メール配信、学内放送などの方法でイベント告知も行った。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学校担当者との意見交換により学校と学生のニーズを把握し、支援に活かす。 2. 海外提携校との長期・短期の留学プログラムの内容充実(受入れ、派遣とも)。 3. 海外提携校とのジョイントディグリー、ダブルディグリー(連携大学との相互認定により、一定期間に両大学の学位を取得できる制度)の実現可能性を探る。 4. 国際コンテスト応募や海外留学を支援するセミナー、ワークショップ等の開催。 5. 学内のグローバル環境の充実(業務に英語を必要とする教職員対象の英語講座を開講。学生を対象にした「英語カフェ」も継続する)。 6. 文化学園スチューデント・アンバサダーの活動促進。 7. 留学生センターにおいては、留学生同士あるいは留学生と日本人がより活発に交流できる行事や、留学生の日本文化理解を助けるための体験行事などを提供する。 【共】

検討組織名：文化学園国際交流センター/国際交流センター運営委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 6 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度業務計画 2. 各学校の留学生関連行事の現状 3. 「文化学園スチューデント・アンバサダー」について 4. 留学生センターの行事について 5. 意見交換
平成 23 年 6 月 20 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化学園スチューデント・アンバサダー」募集について 2. 海外留学説明会について 3. 留学生センター「ゆかた着付け体験」、「スポーツ交流会」について
平成 23 年 11 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化学園スチューデント・アンバサダー」の実施報告 2. 留学生センター「スポーツ交流会」準備について
平成 24 年 3 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年度業務報告、反省 2. 平成 24 年度に向けての意見交換

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1) 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産に関する啓発活動 (1) 教職員及び学生を対象に知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。</p> <p>3. 知的財産の更新及び保護管理 (1) 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>4. 他大学との意見交換、情報交流を図る。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進について (1) 文化ファッション大学院大学（以下「大学院大学」）の関間正雄教授とみやしん株式会社の宮本英次氏による「織物製品及びその織成方法」(特願2008 - 090732)に関する拒絶理由通知書に対して、特許庁へ意見書及び手続補正書を提出した。(結果は、再度拒絶理由通知書があり、取り下げた。「プリーツ織製品及び織成方法」(特願2008 - 278143)も拒絶理由書により取り下げた。)【共】</p> <p>2. 知的財産に関する情報の普及、啓発に関する活動について (1) 平成 23 年 11 月 30 日に第 5 回知財センター講演会「ファッションビジネスの特徴とその可能性」(東京大学大学院特任講師 中村 仁 氏)を開催し、学園各校の教職員や学生への啓発・普及活動を行った。【共】 また、知的財産に関する教育活動としてとして、造形学部学生を対象に(生活造形学科、90 分 1 コマ)、「クリエイティブキャリア論」として知的財産の基礎に関する講義を行い、学生から好評であった(平成 23 年 11 月 24 日)。【大】 (2) 知財に関する概説、平成 22 年度の実績報告についてまとめたパンフレット(A4 版 1 枚)を 1000 部作成、学園内各部署に配布し、知財センターの活動に関する職員の理解を深めた。【共】 (3) 平成 22 年度版産業財産権標準テキスト「総合編」他を各研究室(大学・短期大学部・大学院大学・文化服装学院)に配布した。【共】</p> <p>3. 知的財産の更新及び保護管理について (1) 「洋裁用製図定規」の意匠権、「衣服の製作方法」の特許権、外国商標登録「SO - EN」(シンガポール、マレーシア)の更新を行った。【共】</p> <p>4. 他大学との意見交換、情報交流について (1) 平成 23 年度知的財産権制度説明会(特許庁主催)に参加した。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1) 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産に関する啓発活動 (1) 教職員及び学生を対象に知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。</p> <p>3. 知的財産の更新及び保護管理 (1) 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>4. 他大学との意見交換、情報交流を図る。 【共】</p>

検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 12 日	知財センター小委員会 1．運営委員会開催時期の検討
平成 23 年 6 月 1 日	知財センター小委員会 1．運営委員会議事の検討
平成 23 年 6 月 3 日	知財センター運営委員会 1．平成 22 年度業務実績 (1) 特許出願 (2) 権利化活動実績 (3) 知財センター主催第 4 回講演会の開催 (4) 知財センターパンフレット 2010 の配布 2．平成 22 年度自己点検 (1) 平成 22 年度の課題 (2) 取組の結果と点検・評価 (3) 平成 23 年度の課題 3．平成 23 年度予算・事業計画 (1) 知的財産の権利化 (2) 第 5 回知財センター講演会の開催 (3) 知財センターパンフレット 2011 の配布 (4) 知的財産の更新及び保護管理 (5) 他大学との意見交換・情報交流
平成 23 年 8 月 1 日	知財センター小委員会 1．パンフレット作成に関する検討
平成 23 年 9 月 26 日	知財センター小委員会 1．講演会開催時期と講演者の検討
平成 23 年 10 月 5 日	知財センター小委員会 1．講演会の日時、講演内容の概要の検討
平成 23 年 11 月 16 日	知財センター小委員会 1．講演会当日のスケジュール、講演内容の確認
平成 23 年 11 月 25 日	知財センター小委員会 1．講師を交えた講演会最終準備打合せ
平成 23 年 11 月 30 日	知財センター第 5 回講演会 「ファッションビジネスの特徴とその可能性」 (東京大学大学院特任講師 中村 仁 氏)

検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター

報告者：関間 正雄

提出日：平成 24 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続 2. 産学交流の推進の継続 3. 外部情報公開と交流促進の継続 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 学内 Web 公開対応システム構築 6. 研究機能付帯化の検討 7. 人材確保と養成 8. テキスタイル資料室：Web 版データベースの拡充 映像資料室：ワールドコレクション画像ソフト等の整備</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. テキスタイル資料室：織物産地を中心として素材収集、公開及びレファレンス テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向け無料講習会開催（年 2 回） 映像資料室：ワールドコレクション画像データベース用データの収集 教材用映像資料の収集、公開及びレファレンス コスチューム資料室：コスチュームギャラリーでの資料展示（年 3 回） 学内作品、デザイナー作品の収集、公開及びレファレンス 企画室：ファッションリソースセンターだより発刊（年 2 回） 学生企画展示（年 4 回）</p> <p>2. 下記 2 項、産学交流の実施 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ開催（年 4 回、延べ 157 人参加） デザイナー作品等企画展（年 6 回、延べ 14,666 人見学） コンテスト開催 トークショー開催</p> <p>3. 外部情報公開の一環として「文化学園ファッションリソースクラブ」継続。有料化の下、一般 利用者の会員制導入を図る。外部イベントへの資料提供及び展示協力。</p> <p>4. 映像資料室：公開に向けての調整中 5. テキスタイル資料室：環境整備完了 6. 7. については継続して検討中 8. テキスタイル資料室：データ更新継続中 映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続 2. 産学交流の推進の継続 3. 外部情報公開と交流促進の継続 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 研究機能付帯化の検討 6. 人材確保と養成 7. テキスタイル資料室：データベースの拡充 映像資料室：ワールドコレクション画像ソフト等の整備</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター運営委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 2 月 22 日	<p>1. 業務、利用状況等報告 2. 運営に関する意見交換</p>

共同研究拠点

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進 2. 服飾文化研究の裾野を広げるための企画 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進</p> <p>(1) (共同研究事業の推進) 外部委員 7 名を含む 13 名の運営委員により、共同研究課題の公募と採択を行った。その結果、12 件の応募があり、2 件を採択した。その内訳は、プロジェクト研究として、東アジアの民俗服飾文化に関する研究 1 件、現代ファッションの動態研究 1 件であった。また、若手支援事業の公募と採択を行い、その結果は 5 件の応募があり 4 件の採択であった。</p> <p>(2) (共同研究成果のまとめ) 共同研究課題に関して、平成 21 年度採択の 11 件の 3 年分と、平成 22 年度採択の 1 件 2 年分並びに若手支援事業 2 件の 2 年分を「共同研究成果最終報告書」として作成した。また、平成 22 年度採択の 9 件と平成 23 年度採択の 2 件、若手研究者支援事業の 4 件の 1 年分を「共同研究成果報告書」として作成した。加えて、「共同研究成果最終報告書」の他に、各共同研究課題が独自の最終報告書を作成し、冊子にするとともに DVD 化を行った。</p> <p>(3) (共同研究集会の推進) 共同研究者延人数が 182 名(前年度 160 名から 22 名増)となり、また、共同研究室の積極的な利用を推進したことによって、共同研究集会が多数開催された。</p> <p>(4) (服飾文化データベースの構築) 服飾文化検索サイト FCCL (フククル) の構築を推進した。当サイト構築の推進にあたっては、各地に散在する服飾文化情報を集約する、服飾文化情報発信の窓口になる等、目的を明確にし、Web デザインコンテンツを整理した。また、信州大学繊維学部を訪問し、協定に基づいて、本機構との相互協力により服飾文化データベース構築を充実させることを確認した。</p> <p>(5) (服飾文化関連のシンポジウム開催) 平成 23 年 11 月 26 日にシンポジウム「KIMONO の影響力：ジャポニズムを背景として」、平成 24 年 2 月 18 日にシンポジウム「20 世紀における「きもの」の国際化～日本化と脱日本化～」を開催した。また、共同研究全体の成果発表として平成 24 年 3 月 3 日に「『服飾文化共同研究』の研究成果発表会」を開催し、学内外に向けて共同研究の成果を発信した。</p> <p>2. 服飾文化共同研究の裾野を広げるための企画</p> <p>(1) (服飾文化の若手研究者の活動支援事業の企画) 学内外の若手研究者の共同研究の企画として、若手研究者支援事業を継続し、4 件の若手共同研究を採択した。また、学内の若手教員の育成のために、若手教員研究奨励金を開始し、5 件を採択した。加えて、若手教員の成果発表の場を文化祭に設け、パネル展示や商品化された成果品の公開を行った。</p> <p>(2) (服飾文化の美術館・博物館との連携促進) 展覧会「感じる服 考える服 東京ファッションの現在形」を、東京オペラシティ・神戸ファッション美術館と主催し、両美術館で展示を行った。本展覧会は、テレビ・新聞などのメディアに盛んに取り上げられた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進</p> <p>(1) 共同研究事業の推進 (2) 総合的な共同研究成果のまとめ</p> <p>2. 服飾文化研究の裾野を広げるための企画</p> <p>(1) 服飾文化の若手研究者の活動支援事業の推進</p> <p>3. 整備期間完了後の事業計画の策定 【共】</p>

検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 1 日	第 1 回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1. 平成 23 年度 事業計画骨子(案) 2. 平成 23 年度 共同研究公募(案)
平成 23 年 4 月 14 日	第 1 回文化ファッション研究機構運営委員会 1. 平成 23 年度 事業計画骨子(案) 2. 平成 23 年度 共同研究公募(案)
平成 23 年 6 月 28 日	第 2 回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1. 共同研究の公募 (1)若手支援事業 (2)服飾文化共同研究 2. 若手教員研究奨励金
平成 23 年 7 月 15 日	第 2 回文化ファッション研究機構運営委員会 1. 平成 22 年度 事業報告(案) 2. 平成 23 年度 事業計画(案) 3. 平成 23 年度共同研究の採択 (1)若手支援事業 (2)服飾文化共同研究
平成 23 年 9 月 9 日	文化ファッション研究機構小委員会 1. 文化祭の展示 2. 服飾文化総合検索サイト FCCL(フククル) 3. 平成 23 年度 下半期スケジュール
平成23年 12 月 14 日	平成 23 年度服飾文化特別講演会 「歌舞伎 その色彩とデザイン」 (講師 松竹株式会社執行役員 岡崎 哲也氏)
平成 24 年 3 月 3 日	服飾文化共同研究拠点シンポジウム 「『服飾文化研究』の研究成果発表会」 発表テーマ「近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究」 「日本ファッションにおけるポップカルチャー的背景に関する研究」 「20 世紀における『きもの』文化の近代化と国際化」 「『きもの』文化の伝承と発信のための教育プログラムの開発」 「日朝における生活改善運動と衣生活の近代化」 「ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究」 「日本の伝統組紐の調査研究と国産繭による組紐素材の開発」 「葬送の装いからみる文化比較」 <p style="text-align: right;">他 計 14 件</p>

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年度は私立大学戦略的研究基盤形成事業「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」の最終年度に当たる。前半期では申請時点で目標とした研究成果をあげることに重点を置くとともに後半期ではこれらの成果の発表とまとめを行う。この課題に関心ある学内の若手研究者の参加を促し、全学的な研究の底上げにつなげることも課題としたい。成果の国際的発信については国際交流センターからの支援を要請する予定である。 2. 研究所の有効利用を目指して、更なる設備の充実と整備を図るとともに、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室がスムーズに使用できるよう、その整備、使用管理等、そのシステムをいかに構築するかが次年度の課題である。 3. 研究所報第 4 号は、平成22・23年度の成果をまとめる。その発刊は平成24年度になるが、平成23年度中に、大部分の内容を取りまとめておく必要があり、その作業を進めることが課題である。所報の審査員制度については継続審議とし、新規論文の収録を目指す。 4. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理について、専任職員の配置を次年度の重要課題と位置づける。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私立大学戦略的研究基盤形成事業については、設備導入・研究ともに計画通り遂行した。9月には研究成果報告書を文部科学省に提出し、結果、「大学として特色を活かした活動である」とBの評価を得た。その後引き続き実験研究を推進し、平成24年3月には最終報告の公開シンポジウムを実施した。本事業を通じて高機能アパレルの動態学を中心とする研究基盤が形成され、教員・大学院生等若手研究所員の参加のもと、多大なる成果を上げることができた。 2. 研究所は国内外から多くの参観・見学者を受け入れた。特に東日本大震災後、節電対策としてのクールビズ、ウォームビズに社会的関心が寄せられ、発汗サーマルマネキン実験など、本研究所の活動がNHKをはじめとするテレビ番組、新聞・雑誌等のメディアで多数取り上げられた。 3. 産学共同研究としては、昨年度に続きデサントと帝人ファイバー、花王、カネボウ、マルコ等、さらに筑波大学とオリンピック用ユニフォームの評価についての共同研究を推進した。また、NHK、文化学園服飾博物館等の展示協力も行った。 4. 設備の充実に伴い、その整備と研究指導に多くの時間が取られ、現状は機能デザイン研究室の教員がこれに当たっているが、授業・学生指導・研究推進との両立にかなり無理を生じている。研究所報第 4 号の平成 24 年度発刊に向けて平成 23 年度の研究成果物の収集を行った。 【共】
<p>次年度への 課 題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」について、平成23年度は時間の制約上実験の推進に軸足を置かざるを得なかったが、文部科学省の評価における指摘のように、平成24年度はこれらの成果を整理し、学術論文誌への掲載並びに英文による国際的発信を重要課題としたい。 2. 研究所の有効利用を目指して、更なる設備の充実と整備を図るとともに、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室がスムーズに使用できるよう、その整備、使用管理等、そのシステムをいかに構築するかが引き続き次年度の課題である。 3. 平成24年度は平成22・23年度の成果をまとめた研究所報第 4 号の発刊が課題である。前 3 号は紙質・画質ともに粗悪であったことから、これらの再検討を行い、質の高い所報の発刊を目指す。所報の審査員制度については継続審議とし、新規論文の収録を目指す。 4. 平成23年度の支援事業に対しては、文部科学省から研究所活動に関する外部評価の必要性が指摘された。平成24年度はその方法・組織等についての検討、実施を目指したい。 5. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理について、専任職員の配置を平成24年度の引き続き重要課題と位置づける。 【共】

検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 7 日	文化学園服飾博物館と次回展示「暑さと衣服」内容への実験協力依頼あり。
平成 23 年 4 月 27 日	NHK 番組「あさいち」クールビズのための涼しい着方への実験協力依頼あり。
平成 23 年 5 月 10 日	3 次元動作解析装置及びソフト「SIM」の解析方法に関する説明を実施。
平成 23 年 5 月 11 日	NHK「あさいち」クールビズに向けた人体の局所冷却への実験依頼あり。
平成 23 年 5 月 14 日	日本経済新聞より「クールビズ用下着」の製品比較実験への協力依頼あり。
平成 23 年 5 月 31 日	筑波大学よりオリンピック「トライアスロン」競技用スーツの生地・形状に関する実験協力への打診あり。
平成 23 年 6 月 3 日	文化学園服飾博物館との展示内容に関する打ち合わせを実施。
平成 23 年 6 月 4 日	NHK 広場フェスティバルにおける「暑さと衣服」民族服展示に対する内容指導並びに文化学園服飾博物館との共同協力実施。
平成 23 年 6 月 20 日	文化学園服飾博物館展示の最終打ち合わせ。
平成 23 年 7 月 6 日	政府メディアより、クールビズ、スーパークールビズ効果に関する撮影、資料提供への協力依頼あり。
平成 23 年 7 月 14 日	京都電子工業株式会社より、頭部発汗サーマルマネキン共同開発への打診・依頼あり。
平成 23 年 7 月 27 日	カネボウ株式会社より人体の温冷覚測定装置を用いた敏感皮膚テストへの協同研究依頼あり。 筑波大学より「トライアスロン」競技用スーツの生地・デザイン評価への協力依頼あり。
平成 23 年 8 月 24 日	筑波大学実験データ報告会
平成 23 年 9 月 6 日	全国農業協同組合（JA）と農作業用パンツ、ベスト等開発打ち合わせ。
平成 23 年 9 月 26 日	花王株式会社受託の共同研究中間報告会実施。
平成 23 年 9 月 27 日	私立大学戦略的研究基盤形成事業「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」報告書の提出。
平成 23 年 11 月 21 日	花王株式会社サニタリー関連の次年度共同研究に関する打診・打ち合わせ。
平成 23 年 11 月 30 日	NHK「あさいち」ウォームビズに向けた温冷覚部位差に関する実験協力。
平成 24 年 2 月 3 日	NHKBS「アインシュタインの目」着物の着心地に関する実験協力依頼。
平成 24 年 3 月 8 日	「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」公開シンポジウム開催。
平成 24 年 3 月 13 日	京都電子工業 頭部発汗サーマルマネキンの設置納入、実験継続。
平成 24 年 3 月 21 日	花王株式会社受託研究最終報告会開催。

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進 (1) 学内の共同研究の推進を継続するとともに広く学内外との共同研究を推進する。 (2) 学内研究発表会および所報での成果報告を継続するほか、造形学部 HP での公表を再度検討する。 【大】</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発 教材開発を継続するとともに、教育効果の検証、カリキュラムポリシーとの関係を再度検討する。 【大】</p> <p>3. 研究所報「しつらい Vol. 4」の発行・配布 【共】</p> <p>4. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成 22～24 年度)の継続実施 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 共同研究の推進 (1) 学内共同研究の推進 平成22年度の共同研究は9件であったのに対して、平成23年度は6件の共同研究が実施された。このうち長野県須坂市と共同で行われた「長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究」は、地域連携型教育事業の支援も受けて実施し、その成果を卒業研究展において公表した。</p> <p>(2) 学内研究発表会および造形学部 HP での成果公表 平成23年度の学内研究発表会(9月7日実施)において、平成22年度の共同研究3件について成果発表を行った。また、造形学部 HP において1件の報告を行った。研究成果の公表方法については、今後は一定の形式を整備する必要がある。 【大】</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発 平成22年度は5件の教材開発を行ったが、平成23年度は7件の教材開発を実施した。これまでに開発してきた主な教材について、文化祭期間中(平成23年11月2～4日)に、住環境デザインモデルルーム(D18)において展示・公表した。カリキュラムポリシーとの関係についての検討については十分な対処がなされず、課題を残した。 【大】</p> <p>3. 研究所報の発行 研究所報「しつらい Vol. 4」を「ローカリティ - 地域から生まれるカタチ - 」という特集テーマのもとに平成22年度に企画・編集した。本年度は本報告書を印刷し、学内の各研究室に配布した。研究所報の体裁・内容については、運営メンバー会議において、本来の目的、今日的な処方役を鑑みて見直しをする方向で合意した。具体的な変更方法・内容については平成24年度の継続課題とした。 【共】</p> <p>4. 研究所の基盤形成と他学部連携の共同研究の推進 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22～24年度)として、「高齢期の心身ストレス・生活自立をケアする住環境デザイン(室内・道具・服装・生理・心理)」の研究を、造形学部、服装学部、現代文化学部の教員12名による学際的共同研究を継続して実施した。平成23年度は平成22年度に実施したアンケート調査(回収数847件)の分析結果から、3タイプの高齢者のライフスタイルを抽出した。これらのライフスタイルに基づいて、住環境デザインモデルルーム内に「可変居室システム」の研究設備を特注品として導入し、推奨モデル(家具・道具・服装)を市販品からセレクトして居室可変システム内に設え、専門家による評価ならびに色彩係争を実施した。なお、文化祭期間中(平成23年11月2～4日)に、住環境デザインモデルルーム(D18)において研究の主旨とこれまでの成果について展示・公表した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進と公表 【大】</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発と公表 【大】</p> <p>3. 研究所報「しつらい Vol. 5」の編集 【共】</p> <p>4. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成 22～24 年度)のまとめと成果発表 【大】</p>

検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成23年10月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「しつらい Vol. 4」の経過報告 2. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の経過報告 3. 文化祭における住環境デザインモデルルーム（D18）での研究成果発表について 4. 平成23年度の予算執行状況の把握方法について 5. 平成24年度の事業計画の策定方法について 6. その他
平成23年11月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年度の予算執行状況について 2. 平成24年度の事業計画について 3. 所報「しつらい」の体裁・内容について 4. その他
平成24年3月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の平成23年度報告 2. 平成24年度の事業計画について 3. 所報「しつらい」の今後の方針について 4. その他

事 務 局

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成24年度の共学化に向けて、男子学生受け入れがスムーズに行われるよう職員の意識改革と教員との連携を図り、あわせて他大学の情報収集に努める。 2. 東日本大震災の被災学生に対する支援に努める。 3. 事務職員のカウンセリング能力の向上を図る。 4. 各課で参加した研修会等の情報を事務局全体で共有できるような機会を設ける。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 8グループに分かれて、「学名変更と男女共学化に係る今後の大学のあり方と教育について」検討・討議を行い、グループごとに概要を作成し、事務局内で共有することにより、職員の意識改革を図るとともに、文化服装学院の情報を適宜収集することにした。 2. 東日本大震災の被災学生のための学費減免制度を設け、申請者に適用した。 3. 事務職員のカウンセリング能力の向上については、事務局長が年度途中で一時不在となって交代したこともあり、組織的な取り組みができなかった。 4. 各課で参加した研修会等の報告書を作成し、事務局内で共有するとともに、その中からピックアップした47の提言をもとにして、平成24年度に取り組むべき課題について検討・討議することにより、情報の共有を図った。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各課と教員が持つ情報を共有して、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 2. 入学してくる多様な学生に本学に誇りを持たせ、意欲を引き出す方策を検討し、可能なものから実施する。 3. 奨学金のための寄付金の募集に努めるなど、学生の支援体制の充実を図る。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成 23 年 4 月 4 日</p>	<p>全学 FD・SD 研修会の実施 全学教職員を対象に、各学部の方針の確認を行った。</p>
<p>平成 23 年 8 月 1 日 ~9 月 13 日</p>	<p>大学事務局の職員を 8 グループに分け、「学名変更と男女共学化に係る今後の大学のあり方と教育について」検討・討議を行った。討議の内容は、グループごとに概要を作成し、事務局内で共有した。</p>
<p>平成 24 年 3 月</p>	<p>学外団体主催研修会等参加報告 学外団体主催研修会等に参加した職員が、以下について事務局長にレポートを提出した。 1. 講演会・事例発表・分科会等で特に印象に残った事項や参考にしたい事項 2. 本学で検討すべき事項 3. その他(本学の将来構想)</p>
<p>平成23年 3 月30日</p>	<p>SD 研修会 遠隔会議で新都心、小平両キャンパスの全職員が集合し、学外団体主催研修会等参加報告から事務局長がピックアップした 47 の提言等を参考として、5 つのグループに分かれて、平成24年度取り組むべきテーマについて検討・討議した。</p>

学 園 本 部

検討組織名：学園総務本部

報告者：佐藤 申

提出日：平成 24 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 規程の閲覧や周知の方法について前年度に引き続き調査を行い、具体的な改善策をまとめる。 また、次年度も継続して法令並びに学内規程の遵守を啓発していく。 2. 危機管理対策の再構築を行う。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 規程の管理方法を改善し、過去の規程を施行日で蓄積するように変更した。 寄附行為、就業規則等、主な法人の規程についてはイントラにて公開し周知を図った。 2. 危機管理対策の再構築として、各校の学生担当部署や本部関係管理職による防災委員会を活性化させ、東日本大震災の教訓を活かした今後の防災対策について審議を行った。 震災対策として防災備蓄の整備を行い、防火対策としてや自衛消防組織の再構築や消防訓練を行った。また、防犯対策として、緊急時に防災センターへ通報する防犯ブザーを新都心キャンパス学内 100 箇所に設置して防犯体制の強化を図った。今後は小平キャンパス等も検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 学園のグローバル化にともなう職員の海外勤務について、規程の整備やマニュアル等を作成し海外赴任についての支援体制を構築する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成23年 4 月18日	<p>防災委員会事務局会議 3/11 の検証、防災備蓄の確認、今後の防災体制のあり方討議</p>
平成23年 5 月16日	<p>第一回防災委員会 防災備蓄点検、消防訓練について、自衛消防隊組織について、帰宅困難者対策について 土日、夜間の防災体制について</p>
平成23年 7 月 5 日	<p>文化外国語専門学校消防訓練 1. 地震発生時の初期対応訓練 2. 避難訓練 3. 自衛消防隊 通報・消火訓練 4. 渋谷消防署講話</p>
平成23年 9 月22日	<p>防災委員会事務局会議 防災体制について、防災備品の購入について、消防訓練について</p>
平成23年11月25日	<p>文化学園大学、文化服装学院 消防訓練 1. 地震発生時の初期対応訓練 2. 避難訓練 3. 自衛消防隊 通報・消火訓練</p>
平成24年 1 月17日	<p>防災委員会事務局会議 次年度の消防訓練について、防災備品の購入について、委員会の年間スケジュールについて</p>
平成24年 2 月 6 日	<p>第二回防災委員会 追加購入する防災備品の確認、防災備品収納場所の確認、次年度の消防訓練について</p>

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な施設整備計画に基づき、教育環境の整備と安全確保を継続する。 2. 府中国際学生会館の入寮準備を進めて、新基準による運営管理の実施に努める。 3. 防災委員会の検討を踏まえ、東日本大震災対策の一環として什器備品等の耐震対策及び防災備品のさらなる充実を図る。 4. CO²総量削減対策の段階的な計画を継続実行する。 5. 東日本大震災による電力需給不足対策として、政府発表のピークカット電力削減の徹底。 6. 新都心キャンパス緊急警報装置システムの計画を完成させる。 7. 産業廃棄物(ゴミ・コピー用紙・PC・什器備品等)の再資源化を推進する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な施設整備計画に基づき、教育環境の整備と安全確保を継続する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) D館の耐震診断に基づく耐震補強設計案の検討を行ない、工事着手の準備をした。 (2) J館のリニューアル工事を行い、教育環境施設の整備と安全を確保した。 (3) B201 音響設備の更新により、教育施設の改善をした。 2. 府中国際学生会館の入寮準備を進めて、新基準による運営管理の実施に努める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) プロポーザルによる学生寮の一元的な管理を計画し、効率的な運営管理体制を図った。 3. 防災委員会の検討を踏まえ、東日本大震災対策の一環として什器備品等の耐震対策及び防災備品のさらなる充実を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新都心キャンパス及び小平キャンパスの什器備品の転倒防止及び落下防止対策を実施し、教育環境における安全の確保を図った。 (2) 災害時の非常食の補充と、防災備品及び資材の確保について充実を図った。 4. 東日本大震災による電力需給不足対策として、政府発表のピークカット電力削減の徹底。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 冷暖房設定温度を冷房 28 暖房 20 にして、熱源効率を踏まえた節約を図った。 (2) A・B・C館空調機のCO²センサー制御を有効活用し、熱効率の向上を図った。 (3) 効率的なLED電球の導入と、廊下照明器具の人感センサー導入による節電を図った。 (4) 職員の夏季一斉休暇の延長により、最大電力の削減と節電効果を図った。 (5) 学園内各学校との連携による輪番授業の導入により、最大電力の削減と節電効果を図った。 (6) 高効率型パッケージエアコンへの更新により、節電効果を図った。 5. 新都心キャンパス緊急警報装置システムの計画を完成させる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 既存のカメラ監視装置に加えて、緊急警報装置を設置し、学生の安全確保に努めた。 6. 産業廃棄物(ゴミ・コピー用紙・PC・什器備品等)の再資源化を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ゴミ分別推進運動と什器備品の再利用を推進し、ゴミの削減を図った。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存校舎の耐震整備計画に基づき、D館の耐震補強工事及び関連工事を行い、教育環境の整備と安全確保を継続的に実施する。 2. ふじ学生会館の耐震診断に基づく耐震補強工事と、クラブ室等の利用計画に基づいた改修工事を行い、教育環境の安全と環境を確保する。 3. 防災委員会の検討を踏まえた防災備品及び資材確保の充実と、災害に応じた初動マニュアルを作成して災害対策の向上を図る。 4. 職員及び学生に省エネルギー活動の参加を推進し、夏場の電力削減を図る。 5. A・B・C館の消防法改正に伴う照明器具について改修工事を実施する。 6. 産業廃棄物(ゴミ・コピー用紙・什器備品等)の再資源化を継続的に推進する。 【共】

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1. 財務部財務課を中心に、寄付金獲得の体制をより充実させていく。 2. 平成 22 年度に引き続き、「90 周年事業建設引当資産」、「減価償却引当資産」、「退職給与引当資産」を積み立てていく。 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを行う。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 財務部財務課を中心に、寄付金獲得の体制をより充実させていく。 平成 23 年度は前年度と同様 6,000 万円を獲得、また各学校等の寄付金獲得への準備・支援として規程等の準備を行った。 2. 平成 22 年度に引き続き、「90 周年事業建設引当資産」、「減価償却引当資産」、「退職給与引当資産」積み立てていく。 「90 周年事業建設引当資産」、「減価償却引当資産」、「退職給与引当資産」を積み立てた。 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを行う。 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等について検討を重ねているところである。 【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 24 年度)</p>	<p>1. 90 周年事業への資金計画の策定。 2. 「90 周年事業建設引当資産」、「退職給与引当資産」を積み立てる。 3. 引き続き、「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを行う。 【共】</p>

検討組織名：IT委員会(情報システム室ネットワークソリューション課)

報告者：淵上 和子

提出日：平成24年4月2日

<p>本年度の課題 (平成23年度)</p>	<p>1. 無線LANの環境を検討 モバイル端末に対応する為に、セキュリティを考慮した環境を整える。</p> <p>2. 学生用ポータルサイトの再構築 さまざまな学生サービスに対応するために、さらに調査を続けて製品を導入する。</p> <p>3. 学内ネットワークシステムの再構築 平成24年度導入に向けて、老朽化に伴う時期システム(サーバ・スイッチ・ネットワーク機器)の検討にサーバ統合や仮想技術を用いた再構築を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 無線LANの環境を検討 学内ネットワークサービスの無い、屋外やフリースペース等を中心に、無線LANアクセスポイントを設置し、ネットワークサービスの充実を図ることができた。 また、セキュリティを考慮しサーバールームに無線LAN専用ファイアウォールを設置した。</p> <p>2. 学生用ポータルサイトの再構築 メール機能をGmailへ変更完了。 ポータルサイトに関しては、GoogleAppsの機能を比較し、現在のポータルサイトと平行稼働による検証を行うことで、平成24年度の構築検討の準備を整えた。</p> <p>3. 学内ネットワークシステムの再構築検討 保守切れや老朽化に伴う次期システムの検討を行い節電対策とスペースの確保を考慮し、仮想化によるサーバ統合で再構築を行う事に決定し、平成24年度導入に向け、さらに検討を行う。</p> <p>4. 大学就職支援システムのパッケージを導入支援し学生サービスの効率を図ることが出来た。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成24年度)</p>	<p>1. 学内ネットワークシステムの再構築実施 次期システムをサーバ仮想化による節電対策とスペースの確保を行い、平成24年度導入に向けて、最適な製品での構築を実施する。 同時に老朽化が進むスイッチ・ネットワーク機器の入替えを検討する。</p> <p>2. 附属機関のデータベースの充実化を図る 既に稼働している、データベースの保守・整備。 文化ファッション研究機構 / 図書館リポジトリ / 服飾博物館等のデータベース</p> <p>3. 教室パソコン教室の構築 平成25年度パソコン教室入替えの計画を検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成23年5月24日、7月14日、8月5日、9月22日	無線LAN構築打合せ
平成23年5月26日、6月20日、6月27日、7月29日	就職システム構築打合せ
平成23年5月27日、6月1日、6月14日、7月14日 平成24年2月8日、3月23日	Mailシステム構築 打合せ
平成23年6月2日	節電対策セミナー 参加
平成23年7月1日	学生募集・入試システム デモ受講
平成23年9月7日	図書館システム 再構築打合せ
平成23年9月10日	ICカードシステム 設置打合せ
平成23年9月16日	文化ファッション研究機構 データベース改版 打合せ
平成23年10月16日、12月21日、平成24年2月16日	次期教育系サーバ・ネットワークシステム再構築打合せ
平成23年9月8日、平成24年2月6日	大学IT小委員会 開催

附： 委員会委員一覽表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員一覽

平成 23 年度 文化学園大学委員会委員一覧表

平成 23 年 10 月 1 日現在

[常置委員会]

委員長 副委員長 書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学 生 支 援	研 究	入 試 対 策	就 職
1	服装造形学 服装デザイン学、服飾工芸	田端 智香	小橋 宏美	塚本 和子	砂長谷 由香	鈴木 直恵
2	短大部服装学科	渡部 旬子	佐藤 綾	柴田 早苗	小出 恵	根本 賀奈子
3	テキスタイル、機能デザイン学 生産工学、ファッション画	由利 素子	小林 未佳	長沢 幸子	角田 薫	正田 康博
4	服装社会学 服装史学	田中 里尚	松平 寿美枝	大石 さおり	熊谷 伸子	松田 祐之
5	染織・金工 クラフト・プロダクト 造形文化、絵画 基礎デザイン、色彩学	柴田 眞美	澤田 志功	加茂 幸子	白井 信	関根 正文
6	建築デザイン、住居デザイン インテリアデザイン 短大部生活造形	渡邊 裕子	小田 敬子	松田 純子	高橋 正樹	丸茂 みゆき
7	外国語・総合教養、 日本語、情報科学、 教育学・体育学、 調理学、博物館学	齋藤 満里子	森谷 直樹	本多 吉彦	富田 靖子	水原 寿里
8	国際文化 A 国際文化 B	加藤 薫	久保田 文	星 圭子	城 由紀子	三島 万里
9	国際ファッション 応用健康心理学	安永 明智	青柳 宏	杉田 秀二郎	佐藤 浩信	古御堂 誠子
10	教務部 学生部 就職相談室	円谷 葉子 山口 嘉史	相川 孝 宮本 朱		相川 孝	吉田 和代
学長指名			スワット ファッション・コーチ	福田 善視 相川 孝		大関 徹 永富 彰子

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全 学 F D	研 究 倫 理	研 究 公 正	研究費不正使用防止	ハラスメント防止
佐藤眞知子 渡邊 秀俊 瀬島健二郎 伊藤由美子 梶田 貴子 竹内 将歳 永野 順子 押山 元子 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 鹿島 和枝 遠藤 啓 福田 善視 相川 孝 円谷 葉子 山口 嘉史	小山 昭男 スワット ファッション・コーチ 白井菜穂子 金川 孝義 星野 茂樹 長山 洋子 野沢さおり 安永 明智 安居 典子 福田 善視 相川 孝 吉田 和代	濱田 勝宏 田村 照子 池田 和子 堀尾眞紀子 青柳 宏 荒牧 琢己 野口 京子 米山 雄二 渡辺 秀俊 永井 伸夫 佐藤真理子 円谷 葉子	濱田 勝宏 遠藤 啓 田村 照子 野口 京子 青柳 宏 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 福田 善視 原島 陽一	濱田 勝宏 森川 陽 池田 和子 堀尾眞紀子 青柳 宏 田村 照子 野口 京子 渡邊 秀俊 遠藤 啓 福田 善視 原 敏夫 小林 哲夫 小池 雅己 友利 光夫 円谷 葉子	永野 順子 三島 万里 千葉 悦子 竹内 将歳 青柳 宏 福田 善視 相川 孝 吉田 和代 相談員 鹿島 和枝 平良木啓子 七里 真代 安高 信一 星 圭子 梶田 貴子 宮本 朱 岡部佐代子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程	児童英語教員養成課程	紀要編集	
小澤 節子 大熊志津江 由利 素子 香川 幸子 小柴 朋子 永井 伸夫 矢中 睦美 平良木啓子 大橋 寛子 鄭 永娥	渡邊 秀俊 浅沼 由紀 久木 章江 松田 純子 谷口久美子	古屋 則子 石田名都子 佐藤 浩信 加藤 薫 河上千津子 C.プロシャン 山口 嘉史	齊藤真理子 加藤 薫 星 圭子 白井菜穂子	久保田 文 坂本 政子 古屋 則子	<服装学・造形学研究> 糸林 誉史 通谷 尚子 曾根 里子 根本賀奈子 カボラリ薫 佐藤真理子 田中 直人	<人文・社会科学研究> 中沢 志保 杉田秀二郎 C.k1-1111-11 江原 明子

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
木村 典子 坂本 政子 福井 路可 永野 順子 藤井 玲子 カボラリ薫 川村めぐみ 森谷 直樹	佐藤 正明 田中 直人 福田 博美 福井 路可 植木 淑子	穴戸 寛 瀬島健二郎

図書館	留学制度検討	IT委員会大学小
近藤 尚子 白井 信 通谷 尚子 沼尻 七子 安野 彰 安永 明智	大沼 聡 濱田 勝宏 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 佐藤真知子 坂本 政子 三國 純子 古屋 則子 本多 吉彦 福田 善視 相川 孝 柿島 由雄 円谷 葉子 山口 嘉史	スリット チロニホリニギ 渡邊 秀俊 濱田 勝宏 柳田 佳子 熊谷 伸子 野沢さおり 北浦 肇 円谷 葉子 山口 嘉史

学部・学科・コース編成 (平成23年度)

文化学園大学大学院

生活環境学研究科	被服環境学専攻(博士後期課程) 被服学専攻(博士前期課程) 生活環境学専攻(修士課程)	
国際文化研究科	国際文化専攻(修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンスドテクニクコース インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化コース	ファッション文化専攻 服飾史専攻
造形学部	生活造形学科	グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース	
	建築・インテリア学科	2年次 建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアファブリックコース	
	住環境学科	3年次 建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアファブリックコース 4年次 建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアデザイン(二級建築士)コース	
現代文化学部	国際文化学科	3年次 国際文化コース 国際観光コース 4年次 欧米・中国・日本文化コース 英語英文コース 観光文化コース	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース	
	応用健康心理学科		
	健康心理学科	健康心理コース 健康システムコース	

文化学園大学短期大学部

服装学科	ファッションクリエイティブコース ファッションビジネスコース	
生活造形学科		
専攻科	被服専攻	

入学定員・収容定員・在籍学生数（平成23年5月1日現在）

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	17
	被服学(博士前期)	20	40	35
	生活環境学(修士)	6	12	7
国際文化	国際文化(修士)	6	12	9

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	服装造形	360	1480	1371
	服装社会	140	580	676
造形	生活造形	140	580	526
	建築・インテリア 1	120	240	174
	住環境 1		280	218
現代文化	国際文化	30	150	66
	国際ファッション文化	100	430	486
	応用健康心理 2	30	60	28
	健康心理 3		80	17

- 1 住環境学科は、平成22年4月より建築・インテリア学科に名称変更。
- 2 応用健康心理学科は、平成22年4月開設。
- 3 健康心理学科は、平成21年4月より募集停止。在学生の卒業を待って廃止。

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
服装		200	400	258
生活造形		60	120	79
専攻科	被服	20	20	23

全学自己点検・評価委員会 委員一覧

委員長	佐藤 眞知子	
副委員長	渡邊 秀俊	
副委員長	瀬島 健二郎	
書記	伊藤 由美子	
書記	梶田 貴子	
	竹内 将歳	(平成 24 年 3 月まで)
	永野 順子	
	沼尻 七子	
	押山 元子	
	磯崎 明美	
	鹿島 和枝	
	北浦 肇	
	杉田 秀二郎	
	遠藤 啓	(平成 23 年 7 月から)
	福田 善視	
	相川 孝	
	円谷 葉子	
	山口 嘉史	
	二茅 みゆき	(平成 23 年 7 月から)
	高野 博子	(平成 23 年 7 月から)
	山川 あづさ	
	藤澤 千晶	

文化学園大学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -平成23年度-

平成24年7月1日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会

発行：文化学園大学 文化学園大学短期大学部